

**産業生活常任委員会
予算・決算常任委員会産業生活分科会**

(平成24年9月13日)

山本里香委員長

おはようございます。2日目の審査に入りたいと思います。

きょうは商工農水部の部分についてさせていただきますけれども、商工農水部については関連する部分が多いために、まず最初に競輪事業特別会計の所管課である、けいりん事業課の部分させていただきますして、その後、理事者を入れかえさせていただいて商業勤労課、工業振興課所管部分、そして、最後に、三つのパートに分かれますけれども、三つ目もまた理事者を一部入れかえまして農水振興課関係部分ということで審査を分けてさせていただきますのでご理解いただきたいと思います。

そして、その前に皆さんの机の上に資料が用意されているものの中で、きのう請求されました消防本部の資料1枚、それから、有害鳥獣についての資料がきのうに加えて追加をされておりますので、これは後でまた使っていただくものですが、ご確認をいただきたいと思います。なお、最終のところでも所管事務調査をさせていただくことについてまたご意見をいただくわけですが、そのための資料もご用意をさせていただいておりますので、また見ていただいておりますのでご意見をいただきたいと思います。

それでは、議案第73号の平成23年度四日市市一般会計及び各特別会計の決算認定について、特別会計の競輪事業特別会計について、資料の説明は議案聴取会の際に終わっておりますから質疑から入りますけれども、その前に部長さんからご挨拶をお願いいたします。

議案第73号 平成23年度四日市市一般会計及び各特別会計等の決算認定について
特別会計
競輪事業特別会計

清水商工農水部長

おはようございます。商工農水部でございます。

きのうの委員会の流れを変えないよう、適切かつ簡潔な説明、ご答弁をさせていただきますのでよろしくお願ひします。それと、食肉センター食肉市場特別会計の資料をきょうちょっと差しかえさせていただいておりますので、その辺もよろしくお願ひし

たいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

山本里香委員長

それでは、資料、皆さんのお手元の追加資料について、これは追加資料はなかったですね。競輪事業特別会計についてですが、質疑から行いたいと思いますので皆さんのご発言をお願いします。ちょっと皆さんばたばたしていますがわかりますか。競輪事業特別会計から入ります。

森 智広委員

まず簡単なところからですが、公債費ですが利子が102万円上がっていると思うんですね。公債費残高って今幾らあって、その返済は行われてないようなんですけれども、これ、どういうスケジュールになっているんですか。もうかっていると思うんですけれども。

竹尾商工農水部理事

理事の竹尾でございます。

森委員からご質問の公債費につきましてですが、これは例えば記念競輪をやるんですが、このときに資金需要がございます、そのときに例えば一般会計から一時借入れというのを行って、回していくというようなやり方をとってまして、それにかかる利子、利息でございます。短期の利息でございます。

森 智広委員

短期というと単年度返済になるんですか。

竹尾商工農水部理事

理事の竹尾でございます。

単年度返済でございます。

森 智広委員

これ、システムのこともかもしれないですけど、いや、一般会計から繰り入れているの

にまた借りてまた利子払っているというのでよくわからないんですが、いわば使い分けているということですか。

竹尾商工農水部理事

竹尾でございます。

競輪の場合、特に大きな記念競輪とか60億円ほど売れるわけございまして、たくさんのサテライトとか、ほかのほとんどの競輪場でも売っていただきます。そのときに必要となる、主なサテライトが多いんですけれども、資金需要があるところがございまして。そういったところに一時的にお金を貸すというんですかね、一旦立てかえる必要がございまして、その辺の合計的なもので現在のというか、その時点での競輪の、何ていうんですかね、入っている金では賄い切れない部分がございまして、それを一時的に一般会計等から借りて回していると。もちろんその記念競輪が始まるというか、終わりますとたくさんの売上金が生じますので、その時点でまたお返しするような格好をとっております。

森 智広委員

となると、年度末にはゼロになっていると、基本的にはそういうことでよろしいですか。

竹尾商工農水部理事

竹尾です。

基本的にそういった借り入れはちゃんとお返ししてゼロになっているということでございます。

山本里香委員長

そのほかにご質疑ありましたら。

樋口龍馬委員

よろしく申し上げます。

昨年からの引き続きの部分で、日本トーター株式会社の包括業務委託内にありましたラスクエアの西側にあるビルの広告塔の管理についてご指摘をさせていただきました。その後の経過を教えてくださいたいと思います。

竹尾商工農水部理事

竹尾でございます。

昨年度、樋口委員からご指摘いただきまして、ちょっと時間がかかってしまいましたが、特によく見える南側の看板、中央通りから見えるんですけども、そののまず日付、開催日の日付についてこの9月から差しかえを始めたといいますが、もう既にござんいただきますと今度の9月15日から9月17日あるいは10月12日から10月14日というふうに、四日市競輪の開催日をPRしてもらうようにさせていただいております。それから、あわせまして改修というと大げさなんですけれども、特にやっぱり南側は、何ていうんですかね、日がよく当たりますもので大分文字がさびてきております。特に四日市競輪と大きく書いてある文字がさびてきておりますので、これにつきましては今月中にペンキ塗りかえをして、さらに見やすくPR効果上げていくようにさせていただきたいと考えております。

樋口龍馬委員

ありがとうございます。

私だけで今片づけてしまうといけないので共有を、博物館の道を挟んだ向い側に競輪の看板がついているビルがあるんですが、それが開催日の入れかえもされない状態で放置されていて、日本トーター株式会社に包括委託をする中にその管理業務も含まれていたという状況の中で、非常に賃料は安い看板でしたし、管理も安い看板だったんですけども、撤去をするなり、きちんと日付を入れかえるなりしないと、ちゃんと競輪の宣伝ができないんじゃないだろうかという指摘を昨年させていただいて、どういう形にことしの決算で上がってきているのかなというのを改めてさせていただいたところでございます。入れかえをするようになったことによって、経費増というのは特になく済んだんでしょうか。

竹尾商工農水部理事

竹尾でございます。

契約金額上げることなしに今までのどおりの金額でやってもらいます。

樋口龍馬委員

ありがとうございます。今後も頑張ってください。

小林博次委員

ちょっと1件だけ関連してその看板の件ですけれども、競輪が開催しているのに、車券を売っているのに日にちが入ってない、表示されてない。四日市競輪というのは本場開催と場外開催の両方とがあるんやが、場外開催のほうが全然表示されてない。だから、あの看板を見るとやってないとも思う。そんな異常なものを何の腐れ縁があってこれいつまでやっとなのかしらんけど、もうええかげんに外したらどうなの、見る人いるの。だから、宣伝効果があるとは思えやんのに、これ何年指摘しても看板が外れやんというのは何か特殊なつながりがあるわけやで、その辺を明らかにして撤去すべきやと。第一、開催しているのに何で開催日が入ってないの。開催しているのにナイター競輪だけ表示されていて、あとの日は入ってない。場外開催はやってるんやろう。

竹尾商工農水部理事

確かに小林委員がおっしゃるように、競輪というのは年間で58日の本場開催と。

小林博次委員

いやいや、そんなこと聞いとらへん。やっとなる日が表示されてないから異常やないかと。四日市市でよう対応せんだものを日本トーター株式会社に押しつけたけど、できっこないわけやろう。だから、あなた方がもうやめてくださいって言えば、これもうとっくに終わっとるわけや。それも言わんということを見ると何の腐れ縁があんのと。

竹尾商工農水部理事

あの看板につきましては平成6年に設置しまして、当初は結構大きな額を出していたと思います。それがやっぱり年月が経過しまして、今、現在月額2万4150円でやっております。

小林博次委員

幾ら、何、大事なところがわからん。一番大事なところをきちっとしゃべって。

竹尾商工農水部理事

委員おっしゃるように、競輪は本場開催だけでなく場外開催もやっておるということでございますが、物すごい場外開催の回数が多いですので、その都度かえるとなると物すごく目まぐるしくなってしまうんですが、もう一回。

小林博次委員

だから、役に立ってない看板をいつまでつけておるんやと。何か特殊なつながりがあるのかと。

石田けいりん事業課長

あの看板についてですが、ご指摘のように撤去も検討いたしました。その中で撤去費用が足場を組んで何ということの工程からいきますと現在600万円ほどかかります。その中で有効に存続して使っていこう、少しでも啓発効果、広告効果を出そうということで、とりあえず本場開催日を入れさせていただいた。それで塗装等の美化に努めていこうということで今月修繕を行うわけですが、ご指摘のように開催日がわかるように、今後、場外発売日もわかるような日程の掲示にしていきたくということで協議させていただきたいと思えます。

小林博次委員

これは、個人的な意見やけど撤去すべきやと思うよ。役に立ってないもの。陰に隠れてわからへんやん、あれ。知っとる人はあんなの見やんだってわかる。知らん人は見てもわからん。目に入らんのや。だから、近鉄のターミナルに張ってあるとか、それなら目で見てわかるよな、無料バスがそこにあるとか書いてあれば。全然関係ないんよ。場外車券売っていても開催してないって書いてあるわけやけから、こんな異常なことはあり得んと思うよな。だから、600万円かかったって700万円かかったって、どっちみちどっかでは区切りをつけるとすると、そこで金かかるんなら費用対効果、効果のないものはやめたほうがええ。

そんな無駄金があるんなら、中における従事員たちはただでも競輪残すためにピラ配ったりなんか一生懸命ずっとしとったわけやな、ただで。だから、そういう人たちに大入りであつたら大入り袋出してやるとか、そんな処理をしていくべきやと思うな。ただで働いてくれる人おりませんやろう。残すために死に物狂いでやりましたよ、彼女たちは。でも、

あんたちは何もベロも出さんやろう。やっぱりただで動かしたら別のときに報いてやるようなことを考えていかんと、これはまずいと思うんや。だから、一遍その辺考えてください。

それから、もう一つはこの決算とは関係なくなるんやけど、ほかの競輪場、名古屋なんかでもポイントカードを出して、だから、本場へ来てくれた人が多いと本場の赤字がなくなるんで、本場にどうやって来させるかというのがずっと課題になっているわけやね。その課題がクリアできてない。だから、ここでの質問はどうやって努力したという質問をして、ポイントというのが普通の質問のやり方やと思うけど、時間の無駄やから、これ、こう対応したらどうということをやその競輪場でやっているんで、買うのに対してポイントを出して対応してく。その1回1回買うたびにポイントがつけられるかどうかちょっと疑問があるんで、何かチケットかなんか1000円分とか1万円分買ってもらったときにポイントがつくだとか、そんなやり方とかいろいろ名古屋の、僕行ってないでわからんけど、1回研究してもらって、本場にお客さんがふえるような対策、努力、これはしたほうがいいと思うよ。

終わります。

竹尾商工農水部理事

貴重なアドバイスを頂戴しましてありがとうございます。確かに競輪というのはやっぱり本場にたくさんの方が来てもらって何ぼというのはやっぱり思っていますので、先ほどのポイント制度の導入とかを含めているんな来場者促進策を今後検討してまいります。

小林博次委員

ありがとうございます。

加納康樹委員

今、小林委員に関連するところで、小林委員はもういいと言いましたけど、私はあえて聞きたいんですが、確かに本場お越しいただきたいなというふうに思います。私そんなに競輪に詳しいわけじゃないのでという感じはするんですが、要するにご答弁いただきたいのは、この平成23年度において平成22年度とかと比較して本場に来ていただくために何をしたんですかということでお答えをいただきたいと思います。これを聞くのも私も公営ギ

ャンブル関係にそんなに詳しくはないんですが、でも、ほかの競輪場さんとかと比べても何かイベント的なものの開催頻度が低いような気がするし、津競艇さんあたりは結構いろんなことをやっていると思うんですが、競艇と競輪で違うとは思いますが、競艇さんだと何か素人さんをいっぱい集めているいろいろな初心者講座みたいなのをかなり数多くされているというのを聞くんですが、そういうふうなようなイベント的なもので何か新しい施策がないのか。とりあえずお聞きしたいのは平成23年度は何をなされましたかというところでお答えをいただきたいと思うんですが、平成23年度で取り組んだこと、そして、今後どんなことに取り組んでいかれるのかというところをお教えてください。

石田けいりん事業課長

委員の質問でございますが、平成23年度のイベントに関しましては、一般車券購入者以外にも競輪場に親しんでいただくためにサイクルフェスタということで、バンクの試走を楽しんでいただいたりとか、そういう愛好家にも来ていただいてということで、開放的な競輪場、公営ギャンブル場としてのイメージを払拭するためにもそういうことを行いまして、1000人を超す来場者というか、参加者に参加していただいてイベントをやっております。そのほかにつきましては、当然、場内の美化、来場者に快適な空間をということで、古い施設ではありますが場内の美化等々にも努め、あと車券購入者の方については未確定車券の抽せん会を行ったりとか、ちょっとグレードの大きいF1グレード等になりますと芸人による簡単なショーを行ったりとか、それと、あと女性の方にも親しみやすいということで、去年の夏なんです浴衣でナイター競輪ということで、日本着付け協会の方とコラボをいたしまして浴衣の着つけ教室を行って、その方たちにも初心者コーナーとして車券、競輪のレクチャー教室をしたというようなところが主なところでございます。

加納康樹委員

その最後の浴衣の云々というのも、たしか競艇さんあたりもそんなようなことをたしかかなりやっとなったような気もするんですが、恐らくその一環で取り組まれたのかなと思いますが、そんなので頑張って、じゃ、それで今の1000人当たり、前段のところ1000人とかのお答えもありましたが、平成23年度としてはもくろみどおりにお越しをいただいたと思ってらっしゃるのか、いや、いまいちだったのかという平成23年度の総括と、先ほどなかったのは今後の取り組みというのはどういうふうにお考えでしょうか。

石田けいりん事業課長

済みません、平成23年度の事業につきましては浴衣にしてもサイクルフェスタにしても成功したと思っております。今後、多方面な方、公園のスポーツ施設利用の方でも入れるような施設にしていけるような広報周知を行ったり、平成24年度、今年度につきましては、四日市競輪場の特別観覧席にきつい階段がございまして、上っていくのに高齢者の方も含めて大変ご苦労をなさっておるということで、今年度、昇降装置の工事を計画しておりますし、南駐車場からのアクセスで雨天時なんかに入場門へ入りやすいように歩行者用の屋根をつけたりという工事を本年度計画しております、それが完成後、今後、3階特席等のリニューアルも予定しております、お客様に還元していく、サービス提供していくというように考えております。

加納康樹委員

私も個人的に競輪やめてしまえ派ではない、せっかくあるんだから頑張ってもらいたいと思っているほうですので、ぜひ今後ともいろいろな点でよろしくお願いします。

山本里香委員長

ほかに。

森 智広委員

負担金と補助金のところなんですけど、このまちづくり振興事業団補助金というのは、済みません、その内容と、あと額がふえてきていると思うんですが、その点についてお聞かせください。

竹尾商工農水部理事

まちづくりの振興事業団の補助金というのは、霞ヶ浦会館が本場開催のときの選手の宿舍として活用されて、日程等も私どもの本場開催に合わせて霞ヶ浦会館をとっていただくということで、いろんな例えば選手はその開催期間中、外部と接触してはならないとか、そういった中で活用させていただいていまして、そういったことで競輪の選手の宿舍としての意味合いが強くて、それ以外のときには一般にも貸していただいているんですけれど

も、そういったことで、ぶっちゃけ、このまちづくり振興事業団補助金につきましては一種の運営費補助金になっているのが実情でございます。それで、昨年もしろんな委員さんからご意見をいただきまして、ちょっと見直しにつきまして今ちょっとまちづくり振興事業団の財務部署ともっと適切な支出科目がないのかとか、もっと明確な算定基準に基づくものとか、全体的にいろんな見直しをやらせていただいているところでございます。

森 智広委員

現在精査中というか、検討中ということで余り、それはいい方向だと思うのでなかなかあれですけども、算定根拠というのはあるんですか。それも検討中ですか。

竹尾商工農水部理事

竹尾でございます。

基本的には霞ヶ浦振興財団の運営がマイナスにならないようにといたしますか、そういった方向で補助させていただいているというのが実情でございます。

森 智広委員

これは指摘済みということですから、余りここで掘り下げてもあれですけども、一応まちづくり振興事業団は市とは別なので、そこの運営費補助というのは非常にまた問題がある部分もあると思いますので、その辺、また、今検討中ですので早期に結論出していきたいと思います。

山本里香委員長

それでは、それ以外に。

荒木美幸委員

お願いします。

私も競輪については詳しくないので勉強したいと思っておりますが、先日、館内視察をさせていただいたときに、いろいろ見学もさせていただいて感じたことを少し述べさせていただきたいと思います。先ほどお客様の満足度を上げるために施設もこれから整備をしていくというお話がなされていましたが、いわゆる選手側、選手の方々のやっぱ

り満足度を上げていくこともすごく重要だと思うんですが、そちら側の整備というのを特に考えていらっしゃるということはないのでしょうか。選手が待機をしていらっしゃる非常に狭いところに、たくさんの方々がすし詰め状態でいらっしゃるのを拝見したんですけれども、その点はちょっといかがでしょうか。

石田けいりん事業課長

ごらんいただいたように選手の控室が大変狭うございまして、全国の競輪場が余裕を持ってスペースを選手お一人に与えておるといっただけじゃなくて、全国一律であの布団1枚のスペースで控室に入っただけでおるといっただけで、今、現在多少レース数が減りまして参加選手が99名になりまして、控室もあれで相当余裕が出てきたという状況でございます。それで、そういうスペース的なこと、あとトイレであったり、浴室であったりとか、シャワールームであったりとかというのは、施設は古うございますが現在のところ選手からの不平不満は出ておりません。それで、宿舎につきましても全国的にも食堂の食事もよく選手からは好評を得ておりますので、今のところ選手の福利厚生面とかそういうところでの検討はしておりません。

荒木美幸委員

ありがとうございます。

お客様の満足上げるには従業員の満足が重要かと思っておりますので質問させていただいたんですが、ただ、前回、見学させていただいて女性の選手が最近活躍をされているというのを聞いてすごくうれしかったんですが、今の施設は女性仕様にはなっていないですね、確認ですが。

石田けいりん事業課長

完全に女性仕様にはなっておりません。宿舎のほうで分離宿泊は可能でございます。浴室も男女二つございますので対応は可能です。ただ、その狭い控室、あの部分については女子の控室を新たに設ける必要はございますが、トイレ等につきましては分かれておりますのでその辺は問題はございません。ただ、あの控室の問題だけでございます。

荒木美幸委員

ありがとうございます。

まず控室ということで、やはり女性の選手の方にもくつろいでいただけるようなやはりスペースというのをしっかりと確保して、今後、女性の活躍ってすごく大きな目玉だと思いますので、その辺のフォローといたしますか、お願いしたいなと思います。

以上です。

山本里香委員長

ほかに。

樋口龍馬委員

済みません、教えてください。

霞ヶ浦会館はまちづくり振興事業団が指定管理で受けているんですか。

水谷商工農水部理事

指定管理ではなくてまちづくり振興事業団のほうが建物自身を持っております。霞ヶ浦会館を持っております、前の霞ヶ浦振興公社というのがまちづくり振興事業団に合体したときに、その財産とともにまちづくり振興事業団が建物を持って運営をしております。

樋口龍馬委員

まさに質問の意図としては、指定管理なんだったら競輪事業者が管理すれば、このお金のやりくりの話はうまくいくのかなと思ったんですけれども、民有の建物ということ、要はね。

はい、済みません、ありがとうございます。

森 智広委員

その関連ですけど、これ次の予算までにそのシステムというか、体系というのは整理できるものなんですか。

竹尾商工農水部理事

竹尾でございます。

その方向で、今、進めています。

山本里香委員長

ほかにありますか。平成23年度競輪事業特別会計の決算についてほかにありますか。よろしいですか。

(なし)

山本里香委員長

それでは、質疑がないようですのでこれより討論に移りますが、討論のある方はご発言願います。

(なし)

山本里香委員長

別に討論もないようですので、これより分科会としての採決を行います。
平成23年度競輪事業特別会計について、認定すべきことに異議はございませんでしょうか。

(異議なし)

山本里香委員長

異議なしと認めます。よって本件は認定すべきものといたします。
それでは、競輪事業についてはこれにて閉じさせていただきます。

[以上の経過により、議案第73号 平成23年度四日市市一般会計及び各特別会計等の決算認定について、特別会計、競輪事業特別会計について、採決の結果、別段異議なく認定すべきものと決する。]

山本里香委員長

次に進めさせていただきます。

決算常任委員会の産業生活分科会で商工農水部の商業勤労課、工業振興課の所管部分についての審査を始めます。議案第73号の平成23年度四日市市一般会計及び各特別会計等の決算認定で、一般会計のうち歳出第5款労働費、第1項労働諸費、第7款商工費第1項商工費の部分でさきに述べました二つの課の所管部分です。これについては追加資料が出ておりますので、まずはその説明をしていただきたいと思います。

議案第73号 平成23年度四日市市一般会計及び各特別会計等の決算認定について

一般会計

歳出第5款 労働費

第1項 労働諸費

第7款 商工費

第1項 商工費

加藤商工農水部参事兼商業勤労課長

商業勤労課の加藤でございます。よろしく申し上げます。

お手元のほうにございます決算常任委員会追加資料商工農水部の部分の、まず商業勤労課に係る部分だけをご説明させていただきたいと思います。その後、工業振興課のほうに移りたいと思います。この追加資料の1ページから。

山本里香委員長

きのう机の上に置いてもらってあった部分です。商工農水部、差しかえというのは後です。その前に厚いほうですね。

加藤商工農水部参事兼商業勤労課長

全体で24ページのものでございます。

山本里香委員長

一番裏がこのような表がある、ちょっと厚めの。

加藤商工農水部参事兼商業勤労課長

追加資料のナンバーということですね。申しわけございません。

よろしいでしょうか。その追加資料のところでもず1ページから12ページの部分につきましては、先般、森委員のほうからご請求いただきました商工農水部としての決算、あるいは、課別に事業別にそういったものがわかるものをというところで、1ページから12ページまでのところを用意をさせていただいております。

この中でまず商業勤労課にかかわる部分で、1ページにおきましては労働費の総額等を記載してございます。この中で主なものだけかいつまんで説明させていただきます。支出済み額がゼロになっているところ、合計の下から二つ目のところ、勤労者教育資金融資預託金が支出済み額としてはゼロとなっておりますが、これは平成23年度におきまして利用実績がなかったためゼロというところになってございます。それと、下の商工総務費につきましては記載のとおりでございます。

それと、2ページは飛びましてちょっと3ページのほうが商業勤労課の商工業振興費の部分でございます。全体としては記載のとおりでございますけれども、下から一つ目、二つ目、東日本大震災関係経費というところがございます。まず上の被災者雇用奨励金というところがございますが、これは昨年6月補正のほうで補正予算で1000万円の予算計上をさせていただいてご承認いただいたものでございますが、震災に関連して四日市市のほうに避難をしてみえた方を、3カ月以上市内の企業が雇用していただいた場合、その企業に対して10万円を支給をさせていただくというところがございます。これにつきましては支出済み額10万円というところで、結果としまして、それぞれ各方面に周知等をさせていただいたんですが、1社の実績ということで10万円ございました。

それから、あと東日本の関係で同じく中小企業振興資金保証料補給金というところで、市内の中小企業が東日本大震災の関係で影響を受けたということで、市の制度資金を利用いただいた場合に、その保証料を全額補給するというところで、これも同じく昨年6月補正予算で予算計上させていただきまして1210万円いただいたわけでございますが、これも支出済みとしましては全体では7社ございまして213万562円という支出でございます。いずれも予算現額においては被災者雇用奨励金が690万円余、保証補給金については213万円余という予算現額になっております。この差につきましては下から6番目ですけれども、2969万641円という中小企業振興資金保証料補給金というのがございます。こちらのほうでことし平成23年度の末に予算の不足のほうが生じてございまして、これ約600万円ほど

でございますが、そちらのほうに流用をさせていただいたという形で、予算現額がそのような形になってございます。

続きまして、4ページにおきましては観光費でございます。こちらにつきましては記載のとおりでございます。

それと、あと商業勤労課の部分だけを説明させていただきたいと思いますので、あと13ページのほうをお願いしたいと思います。こちらにつきましては森委員のほうから歩行者天国事業というところで、平成21年8月に第1回目を開催してございます。それぞれ各回の状況がわかるものというところで記載のように用意をさせていただいてございます。

それと、14ページにおきましては、こちら森委員のほうから近鉄四日市駅西の開発整備事業への補助金の支出先がわかるものというところで、平成23年度におきましてはディベロッパーでございます三井不動産1社でございます。参考としまして平成22年度におきましては三井不動産のほかテナントの事業者に対しても奨励金を講じてございましたので、そのような内容を参考までに記載をさせていただきました。平成23年度からはディベロッパーだけへの補助ということとさせていただきます。

それと、15ページにおきましては副委員長のほうから資料請求いただきました障害者のトライアル奨励金を支給したそれぞれ14名の雇用が継続しているかどうかというところを記載させていただいております。1番から14番までございますが、11番におきましては自己都合でトライアル雇用の3カ月が終了した段階で退職をされておるというところがございます。

商業勤労課につきましては以上でございます。

佐藤工業振興課長

おはようございます。工業振興課長の佐藤です。よろしく申し上げます。

今、先ほどの資料の2ページのほうに戻っていただきたいと思います。2ページの上のほうから工業振興課の関係部分が並んでおりますけれども、この中でちょっと執行額がゼロとなっている部分について説明をさせていただきます。

まず上のほうからちょうど真ん中あたり少し上ぐらいで燃料電池水素関連開発補助金というのがございます。こちらのほうについては議案聴取会のほうでも若干説明をさせていただきましたんですけれども、これは県の補助金とセットになっておる補助金でございます。燃料電池というよりは最近の動向がリチウムイオン電池のほうの開発研究と、そち

らのほうに企業のほうが目が向いているということで、実績がなかったということで執行ができませんでした。

それから、少し下へ下がっていただきまして中小企業振興基金積立金、額は小さいんですけど、1万3000円というのがございます。こちらのほうは一応予算のほうは基金の運用益として1万3000円を置いていたわけでございますけれども、改めてその基金条例のほうを見ますと、本来は積立金に運用益を積むのじゃなしに、事業費のほうへまずは充当するというふうなことが正当であるということがわかってまいりましたので、この1万3000円については基金のほうに積み立てずに、事業費のほうは充当をさせていただいております。このあたりで執行がゼロとなっておりますのでご理解をいただきたいと思っております。

続きまして、16ページをごらんいただきたいと思っております。まず16ページの臨海部工業地帯競争力強化検討会でどんなことが課題に挙がっているのかというところで資料請求がございましたので、現在の協議状況、それから、こういった具体的に挙がっている課題等について資料を提出させていただきました。

簡単に上のほうから見ていきますと、まず二つの規制関係のほうで操業環境関連部会というのを一つつくっております。もう一つは産業基盤整備部会ということで、二重線の下のほうでございますけれども、この二つの部会を中心にいろんな検討を進めておりますが、まず上のほうの操業環境関連部会、こちらのほうで挙がってきましたのが工場立地法の規制緩和、これは9000㎡以上の敷地あるいは3000㎡以上の建屋のある工場を対象に、20%以上の緑地をとりなさいといったような内容の法律でございますけれども、この辺の緑地面積の緩和ができないかというのが1点。それから、最近よく問題になっております土壤汚染対策法の規制緩和、これがどうにかならないのかなといったようなこと、それから、消防法とかの規制緩和をしてほしいというような内容が挙がっております。

この中で現在やっぱり土壤汚染とか消防法については、なかなか具体的な投資案件というのが出てきた段階でないと具体的な協議ができないなということで、それは具体的な案件が出たときにやりましょうかということになっておりまして、現在は工場立地法の規制緩和について特定工場、これ市内に百十数社ございますけれども、そこを対象に現状とかをヒアリングしながらワーキングなんかをつくって現在検討を進めているところでございます。また大きな方針等が出てきましたら、その際にはご説明をさせていただきたいと思っております。

それから、2番目、下のほうの産業関連部会、こちらのほうもいろんな項目が挙がって

おります。コンビナートの企業間での連携事業の新たな取り組みができないか、あるいは、港湾整備に関して棧橋のしゅんせつ土砂、民間の棧橋のしゅんせつの土砂処分場がないと、それを何とかできないかとか、あるいは、コンビナート自体が住宅の隣に工場があっても、そこでつくられている製品がどのようなものになっているのか、住民さんもなかなかわからないというのがございますし、実際にどういうものに使われていくのかなという、もう少しコンビナートの中身を住民さんを初めあるいはいろんな市街の方にも知っていただけるような、こういったパンフレットなんかをつくって、少しでもイメージ向上を図ってはどうかと、こういった内容に取り組んでございます。それと、もう一点は人材の育成の関係ということで、今、AMICの高度部材イノベーションセンターでも人材育成講座等がかねがねやっておりますけれども、それとは別にもう少しこういった内容の講座があればなというふうな意見も上がってきてございますので、こちらのほうも三重県あるいはAMICのほうと、今、調整を図りながら具体化できないかといったようなことを進めております。

続きまして、17ページのほうでございますけれども、こちらのほうはAMICにおける主な研究開発の成果がどのような格好になっているのかということで資料のほうをご請求いただきました。それで主なものを17ページから19ページにかけて挙げさせていただきました。少し内容が難しい内容になっておりますので、ちょっとその辺は申しわけないんですけれども、なかなかちょっと簡単な言葉に直せないというところでご理解をいただきたいなと思っております。

まず17ページに挙げさせていただきましたのが、まずAMICが主体となって研究開発を進めている事例でございます。例えば でございますけれども、全固体ポリマーリチウム二次電池開発プロジェクトということで、こちらのほうかなり、何じゃ、これはという内容ですが、本来リチウム電池というものと液体、電解液と正極材・負極材というのがありまして、あくまで液体でございますので漏れたりとか、そういうことでいろんな危ないことが生じたりというのがございます。それでその電解液をいわゆる固体にしてゲル化してより安全な電池をつくれなかと、そういった簡単に言うとそんなような内容の研究会でございまして、今、現在その全固体ポリマーリチウム二次電池というのを一応技術としては開発してまいりました。下のほうの写真にございます左手のほうでございますけれども、ちょうどこれは試作品でございますが、皆さんご存じだと思いますけれども、湿布薬が入っている10cmか20cmぐらいのアルミのパックみたいなこれぐらいのがあると思

います。この中にゲル状のものが入ってございまして、それについているのが豆電球でございまして、そういったもので電気がつきますよというようなものが開発されてまいりました。現在は国際特許のほうの申請中ではございまして、大手企業なんかも数社入りまして三重県次世代電池イノベーション推進協議会というのを作りまして、さらなる事業化へ向けた取り組みが進んでいると、そういった内容でございまして。

続きまして、次のページの18ページのほうは、こちらのほうはAMICに入居している企業、どちらかといえば大企業のほうの研究開発の事例を挙げさせていただきました。例えば2番を見ていただきますと、これも聞いたことがないような名前が出てきますけれども、メソポーラスシリカといった高機能のハイブリッド触媒技術の確立を目指した研究でございまして。市内の企業で言えば太陽化学さんが結構このところに力を入れてございまして、いわゆる触媒なんでもございまして、ゼオライトというのを、多分、皆さん、福島第一原発のときに若干お聞きになったことがあるかと思えます。いわゆる吸着剤の一種なんですけれども、そのゼオライトとはまた穴の大きさが若干大きいとか、そういったものが違うわけではございまして、こういったメソポーラスシリカという金属酸化物等を担持させる電極触媒というところに使えるようなものを、太陽化学のほうで量産技術を確立されております。まだ実際量産体制まで入っているという状況ではございませぬけれども、技術としては確立はされてまいりました。そういった内容でございまして。

次のページの19ページのほうでございまして、こちらのほうは市内の中小企業が主体となった研究開発ということで、小林機械製作所さんでありますとか伊藤工機さん、それから、こちらは市内の業者16社の方が参加されています試作サポーター四日市と、いろんな業種の方が入ってみえます。こういったところも下にありますようなラボスケールでのIHの加熱反応缶という、こちらは実験室なんかで使えるような装置なんですけれども、こちらのほうを開発しまして、今、各地の展示会等なんかへ出展をかけて販路開拓に努めているような状況でございまして。以上、ちょっとAMICでの研究内容ということで主なものをご紹介させていただいたところで。

説明のほうは以上でございまして。

山本里香委員長

それでは、二つの担当のところから説明をいただきましたが、まずはこの今追加資料の説明いただいたことについての質疑を行った後、平成23年度全体に入っていきます。また

行きつ戻りつということは部分的にはあるでしょうけれども、そのような形の中で、ここで5分まで休憩をとって質問・質疑に入る頭の整理をお願いしたいと思います。

11:53 休憩

11:05 再開

山本里香委員長

それでは。再開をいたします。

資料説明をしていただきましたので、ご質疑がございましたらお願いいたします。

小林博次委員

資料16ページの操業環境関連部会で工場立地法の規制緩和、基本的には規制緩和に反対しているわけじゃないんよね。従業員の福利厚生をつぶしてまで緑化が進んで、また同じ敷地の中で工場面積がふえないとよそへ出ていってしまうという危険がある。そういう意味ではこれ賛成なんだ。ところが、四日市市が最近対応している流れを見ると、例えば公害資料館で公害40周年の機会に何とかしたいということで、公害が出ているということ在全国にテレビ発信を始めた。そうすると、まだ患者も依然としておるやないのと、そんな感じの中でこれ規制緩和やって緑の部分が減らしたりということになると、何か悪いことしとるようなイメージしか残らんと思うんや。だから、庁内的に一体これどんな論議になっているのかね。発想としては公害を克服して、こんなすばらしいまちになったよという情報発信したいという話を聞いたんやけど、テレビを見る限りでは、公害が出っ放しですよという宣伝しかないわけ。それで、忘れやんように40年を機会にもう一遍考え直すかという感じで発信されているから、思いという答えが変わっている。そんな中でこの規制緩和という話が出てくると、これ規制緩和はもっと前から出てるんやけど、前市長の井上さんがさぼってやらなかっただけのことで、だから、ということなんやけど、一体庁内でどんな相談しているのと、その辺きちっと認識してやってんのかなと。

佐藤工業振興課長

今、緑地の関係でご質問いただいたんですけれども、まだ庁内でこうして行こうという

ところまでは全然至っておりません。昨年の6月ぐらいに工場立地法、その法そのものが緩和するのが、今20%なんですけれども、最大限5%まで落とすことができますよということまでぐっと下がってまいりました。企業としても、今、昨今のもうすぐ海外が云々というような中で、何とか新たな活動用地を確保したいという要望はやはりございまして、その辺あたりからも出てきておるんですけれども、ただ、今、現状である緑地をこれ以上減らしてもいいよという格好では考えておりませんので、今、20%、それから、コンビナート地帯の昭和49年以前からある工場では15%まで県の準則で落としております。ただ、実際には今のところ10%弱しかまだ至っておりません。新たな設備投資がされるごとにそれ見合いの一部、少しずつ緑地は若干ではございますけど、ふえてございますけれども、過去10年間で大体1%ぐらいしかふえてないという現状がございます。

私どもでも、今、公害資料館の話もございましたけれども、全く工場、企業側だけが得するということではだめだろうなというのは十分認識しておりまして、例えばまるっきり工場の真ん中に芝生が植えてありますよというふうなところでは、なかなか市民に対する緑の感覚というのは全然思ってもらえるところはないと思いますので、例えば敷地周辺部、工場の敷地周辺の緑化に対してもう少し質を上げてもらったら市の独自の基準でそれをカウントしましょうとか、そういった取り組みとか、あるいは、敷地外であっても市の管理する例えば緑地でございますとか、そういうところに若干のご負担をいただくとか、そういったことが考えられないかということで、企業のほうとしてもどういったことなら検討できそうですかというのを、今ヒアリングさせていただいている段階でございますので、もう少しまとまってからいろいろと庁内では議論を始めたいなと思っておるところです。

清水商工農水部長

工場立地法につきましてはまだ庁内での合意までは至ってございませんけれども、今、課長が言いましたように決して市民の方から見られて腰引いたなというような形ではないようにしていきたいと思っています。この権限、ことしの4月から市町のほうへ来ていますので、そのあたり十分認識しながらやっていきたいと思ひますし、公害資料館についても公害を再燃するという概念ではなくて、今までの経過、あるいは、四日市市が改善してきたことを未来に向けてこれから発信するというふうなコンセプトでつくるんだというふうに私は認識しておりますので、よろしくお願ひします。

小林博次委員

そうやって認識しておったけど、テレビに出てくるのは、公害のまち四日市しか出てこないんで、だから、それはまずいやろと。やっぱり克服してきたわけやから、どうするのというところまで情報発信がないから、イメージだけ悪く、どんどん悪くなっていく、だから、それはまずいやろと。思っていることとやろうとしていることが違うんやろうと。だから、公害企業なんかも、発生源企業なんかも協力しないやろと。きちっと協力、お互いが協力をしてもらって環境を整えたまちとして世界に情報発信をするという理想を持ちながらも、現実には逆に行っているんで。それと、昭和47年7月24日の判決以降、やっぱり工場もきちっと環境を整備する、緑化しないさいと。それから、銀行、官公庁は緑化がないと。だから、工場立地法でももちろん企業ということやけど、我々そのとき要求した中身は、銀行も金貸してもうけるけど、全然自分のところは緑化面積持ってないなと。だから、それ相応の責任持って対応しなさいよと。

それから、市役所なんかも緑化しているようで緑化してないよと。例えば防災緑地、中央緑地と霞ヶ浦緑地をつくったけれども、そこへだんだんだんだん人を寄せて、だから、危ないから離そうかというところをつくった、緩衝地帯をつくったのに、またぞろどどん人入れておるやないのと。こんなのあるべき姿と違うでしょうと。だから、やっぱり原点に立ち返って考えるというのは、そういうもろもろの問題もあわせて考えて初めて僕は答えがでるのかなと。

ただ、皆さんと同じように危惧したのは、工場の中でもうほとんどスペースがないぐらい緑化してきたから、これではもう海外展開されてもしょうがないなと。だから、できるだけ早く規制緩和して新しい設備投資ができるような、もちろん公害対策を含めた設備投資ができるような、そんな条件整備すべきやと、ここは変わらん。変わらんのやけど、さっき言うたみたいに何やあんたやっていることと違うやろうと、今、だから、それを思っている理想に近づけるように庁内論議をきちっとしてもらって情報発信をしてもらいたいなと。企業だけこうせいということやなしに、例えば塩浜街道なんか今もう交通渋滞で往生しているわけよ。ここら辺も企業の中の敷地を道路として使わせて、大井の川に橋かければ交通緩和もできるわけよね。ああいった例えばクリークがあって、その周辺の緑化はできるわけやんか。その周辺のこれぐらいの面積を緑化したら何%の緑化をカウントしますとか、そういう提案を市側がしてやらんとなかなか難しい点があると思うんよね。だから、ここやれと言うてやらんとあかんと思う。若干離れてもこれがその企業として対応し

ていることですよということであれば、市民が評価してくれるような、そんな情報発信もあわせてしていかなと何か手抜きするのかなというイメージしか出てこんから、それはまずいやろうというのがこれ意見として申し上げておきますので、また内部的に論議するときにあったらしてください。これが一つね。

それから、二つ目が17ページの高度部材イノベーションセンターのAMICと産学官で連携して燃料電池が進むのかなと思ったら若干向きが変わった。それであと燃料電池はどうなるのかちょっとわからんけど、今、家庭用とか車用の燃料電池というのは、これは事故の問題で多分無理やろうなというふうに思うけど、しかし工場で火力発電に使う燃料としてなら使える可能性が極めて大きいわけやね、今。石油精製の過程で水素をほっとるわけやから、ほっとるやつを燃料化するわけで、こういうのをやっぱり途中で放らずにものにするようなことを民間企業、だから、発電するよという会社を募集しながらこういうところに参入しないとなかなか難しいと思うな。だから、その辺ちょっと考えてほしいのが一つと、考えているかどうかわからんから考え方聞かせてほしいのと、それから、それ以外、これは大体指にとまってきた人たちを中心に、これ、今、産学官連携がなされていると思うんやけど、それ以外の民間企業も業種転換したいとかさまざまのことを思っていると思うんで、そういう地元で残ってやってくれる企業群を何か新しいテーマで、企業として生き残れるような条件整備をするための産学官連携のほうも立ち上げてほしいと思うんやな。何か考え方があれば、できればそういう産学官連携の事務局を四日市市が担ってもらってやらん限りはできやんと思うので、そういうことを考えているかどうかということを含めてちょっとご答弁いただけますか。

佐藤工業振興課長

今、小林委員からご質問いただきました。まず燃料電池の関係でございますけれども、今ご紹介させていただいたプロジェクトなんかにおいても、例えばこのポリマーのリチウムイオン電池、こういった研究開発に対してもかなりの費用がかかってございます。これについては市とか県だけでは全然太刀打ちできるような額ではございませんでして、簡単に言いますと2億円から5000万円のお金が数年間ずっとかかっているということでございます。こうした財源をどこでどうやって調達しているかということ、国の経済産業省のほうのいわゆる国プロと言っているんですけれども、国のプロジェクトでありますとか、NEDO、産業技術振興機構なんかがやっております委託事業のお金をAMICのほうで確保

してきて、それを財源にこういう研究開発を進めておりますので、まずは一つその事業に何とか採択されるようなところから入っていかないと、手持ち無沙汰になってしまうという状況もございます。ただ、燃料電池に関しては、今リチウムイオン電池のほうが目先のほうへずっと行っておりますけれども、やっぱり将来的には、今、委員が言われましたようにかなり有望なところであると思っておりますので、AMICとしましてももちろんそういったことに対してもうまるっきり関心ないよというわけではございませんので、引き続きそのあたりもこちらのほうから申し入れはしていきたいなと思っております。

あと、それから、いろんな企業さん、ほかにある企業さんの産学連携ということでございますけれども、今、現在AMICのほうには民間出身のOBの方でコーディネーターというのが何人かございます。10人から20人ぐらいおましてその方たちを中心に県内の企業を回ってもらっています。昨年の実績におきましても約365回中小企業の訪問をさせていただいていると聞いておまして、その中で市内企業も80社から90社ぐらい訪れていただいております。当然市内企業だけでなしに津市のほうのこういった企業と四日市市のこういう企業、お互いに欲しているものと使ってほしいもの、そういったものを結びつけるということも大事ですので、ここで市内にこだわるということは余りないかなと思っておりますけれども、そういった活動を通じてAMICにひとつここでやってみないかと、そういった機会を探っておるといってもやっていただいております。

あと、事務局を市のほうで持てたらということでございますけれども、なかなかこちらのほうがやはりある程度は技術的な見地がある職員といいますか、その辺がないと難しいのかなというふうなところがございまして、市のほうはなかなか県のように工業試験所とか、そういうものを持ってございませんもんで、いわゆる技術系の職員というのがはっきり言っておりません。できるだけ今としてはAMICをうまく、できるだけ活用したいというところでやっておりますけれども、市も極力そういったところへ一緒に参加するなりしてやっていっているというのが今の現状でございます。

山本里香委員長

関連して。

伊藤 元委員

今の小林委員の質問に関連してなんですけれども、この間の議案聴取会の際にもちょ

っとお尋ねをしましたこの燃料電池の件なんですけどね、今の説明でリチウムイオン電池のほうにかなり強く移行しておると、時代なんか、どうなんやろう。それでまたこの開発にかなりのお金も投資されているという説明やったけど、その燃料電池においても以前それぐらいというか、それ以上のお金かかっと思ったと思うんやわ。それで私らも政友クラブで次世代エネルギーということでテーマにして、国内のいろいろあちこち勉強に回って、アメリカ・カナダまで行っているいろいろと勉強させてもらってきた。それで、それがやっぱり各家庭のエネルギーにもつながっていく、当然自動車とかもありましたけどね、そういうものかなという気はしとったんです。それで、今、市内ではそれに取り組んでくれる人がおらんみたいやけども、それやっぱり全国から募集してやっぱり市内で頑張ってもらおうということは大事やと思うんですよ。

それで、私らね、あれ、産業生活常任委員会やったかな、会派やったかな、山口県周南市ってありますやんか。あそこもコンビナート地帯のところを出光興産株式会社かなんかがあって、それで東ソー株式会社もあったかな、それで、その地区では燃料電池の実証実験としてね、その工場から出てくる副産物水素を利用してパイプラインで都市ガスのように使って、それで研究進めておると。それで、あの機械を数千万円という値段がしとったんやけれども、政府からの依頼ではそれをやっぱり数百万円で家庭で置けるように何年後にはせよという話があるというふうなことで、開発研究を進めとるって聞いてきとんのやけど、何か今聞いとるともう全然燃料電池は、またリチウムイオン電池とは使い勝手は違うと思うんやけど、何か将来性薄いなって感じるんやけどね。それでもっと四日市市としても力を入れるべきやないんかなと思うんですよ。その辺どうなんやろうね。今、小林委員さんにもちょっと答弁されておりましたけど、もうちょっと入り込んだ感覚というか、その辺の話が欲しいんやけどね、どうなんですかね。

佐藤工業振興課長

もう少し燃料電池のほうに市から入り込めないかということでございますけれども、私どもも何とか新しい企業さんと、いろんな企業さんと顔を合わすたびに、何か新しいことをやりませんかみたいな話のことはいろいろ問いかけはするんですが、やはり企業さんとしてはまずは何とか生き残ってくために、今稼げるやつを先にやらなければならないという、それは宿命でございますので、今回は燃料電池の補助金についてまた多くございませんでしたので、平成24年度についてもどうもなさそうだということで一旦補助金は置いて

おりませんけれども、当然そういった動きが出てくれば、それはこちらのほうも臨機応変には対応をしていきたいなというふうに考えておりますし、引き続きAMICのほうでありますとか企業さんのほうにも、こういった燃料電池開発についての動きはどうかといった情報収集なんかに、努めていきたいと思っておりますのでご理解いただきたいなと思います。

伊藤 元委員

ぜひ力を入れてほしいなと思います。何でかという、やっぱり本当に環境にやさしいというかね、水素というのはやっぱり危険で怖いもんやけれども、でも、使い方やと思うんですよ。ガソリンでも何でも燃料って使い方によって安全でもあるし危険でもあるわけやで、やっぱりクリーンエネルギーということではいろいろ次の世代に向けてね、模索していかないといけない大事な仕事やと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

それで、ここにはないわけなんやけども、この間、中森議員やったかな、一般質問したけれども、メタンハイドレードのまた次世代エネルギー化ということで、いろいろと研究されておると思いますので、その辺の分野に広げてひとつまた、これを切るんであればね、そういう部分でないのかということころをひとつ次の予算の中で反映してもらったらどうかなと思うんやけど、そのメタンハイドレード、たしか愛知万博のときに東邦ガスという会社がそのやつを展示してアピールしとった記憶があるんですよ。そうならばやっぱり都内にもそういう企業さんもおりますので、それ関連ですのかせんのかとか、やっぱりそういう調査をしながらぜひそれをいい形に結びつけられるように頑張っていたきたいと思います。

とりあえず以上です。

山本里香委員長

そのことについてはよろしいですか。

伊藤 元委員

ちょっとコメントがあれば。

佐藤工業振興課長

今の時代にいつどんな新しいものが出てくるかというのは非常に目まぐるしく動いていますので、私ども今この補助金しかあるいはこういった支援制度しかないからもう何もできませんという姿勢じゃなしに、それはどんどんと次の新しいものに対応できるようにいろんなものは考えていきたいと思っております。

山本里香委員長

それでは、ほかに質疑。

樋口龍馬委員

追加資料に限ってですね。

山本里香委員長

まずはそういう流れです。

樋口龍馬委員

3ページの商店街街路灯電灯料補助金なのですが、富田地区の3商店街ありきでスタートした事業だというふうに昨年説明をいただきまして、ほぼほぼ使い切ってもらっているんですね。ただ、いろんな商店街さんもLEDに変えていきたいという中で市民文化部のほうでもお願いしたんですが、逆に市民文化部の防犯街路灯事業では400万円残っていますんで、何とか丸めて一番街の中や商店街の電灯というのは防犯外灯の意味も非常に強く持っているところですので、予算の枠をうまいこと超えていけるように今後丸めていただきたいなという、次の予算に向けてのお願いを決算の中でさせてもらいたいと思います。

それから、13ページの歩行者天国事業のところ、主催者発表である来場者数を書いてもらってあるんですが、この前、石川委員もちょっと指摘されていましたが、駅の乗降客数とかホテルの利用者なんていうのも調べていただかないと、観光要素としては難しいところもあるのかなと思いますので、昨年度たしかJRさんは乗降客数については情報開示請求を出さないと出してもらえないというお話でしたけれども、こういう来場者を割り出していく上で情報開示請求をことしはかけていっていただいたんでしょうか、お尋ねさせてください。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

観光でございます。

申しわけございません、ことしもまだかけておりません。申しわけございません。

樋口龍馬委員

昨年度かなり強く指摘をさせていただいた部分かなと思いますので、それは履行していただかないと決算認定にも影響出てくるのかなというふうに考えます。情報開示請求をしっかりと出していただいてJRさんからそのときの数字をとってもらおう。それから、できれば各ホテル業者もそのときのホテルの利用状況はどうだったのか、これは数字を出してもらえばいいだけだと思いますので、近鉄さんはすぐ出るんですよね、情報は。鉄道の利用者数はこのイベントのときだけはとらないと、交通量だけでは市内か市外かという判断もつきかねますし、電車利用の方はぜひ調査していただきたいと思いますので、でも、決算中間に合わないですね。去年も言っとるんですけども、何でことししてもらえないんですかね、ちょっとお答えください。

山本里香委員長

今から調査もできるかどうかも含め。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

大変申しわけございません。JR、鉄道含めまして決算に間に合うということはお約束ができませんが、まずはおわびでございます。それと、ご指摘を昨年度からされていたことにつきましては今からまた動かさせていただきますのでご容赦いただきたいと思います。申しわけございません。

樋口龍馬委員

昨年も指摘して、ことしも石川委員からの指摘もある中で取り組んでいただけないというのは、決算認定もすんなりということなのかどうか、そこもちょっと含めて、部長、答弁してください。

清水商工農水部長

決してそういうつもりはございませんので、私どもの努力が足りなかったということで、この議会中にできるかどうかはまた別ですけれども、早速把握はしてまいりたいというふうに考えてございます。よろしくお願いいたします。

山本里香委員長

樋口委員、早速していただくということで、この中ではできるかどうかということですが、このままで進めてよろしいですか。

樋口龍馬委員

はい、していただけるというご答弁を部長から頂戴しましたので私のほうは結構です。

山本里香委員長

そのほかに。

加藤商工農水部参事兼商業勤労課長

商業勤労課でございます。

樋口委員のほうからの資料3ページのところの商店街街路灯電灯料補助金の件で要望といいましょうか、ご指摘もいただいておりますけど、この中身につきましてはLEDではございませんで、LEDは平成24年度の事業でございますので、これは市内商店連合会に加盟しております22の商店街がみずから設置して、商店街の街路灯として設置してもらっておりますが、その電気代の補助ということでございます。結果としましてはLEDが進めばこの補助額も関連して減ってくるということもございますので、今後に向けてもいろいろより環境にやさしいといいましょうか、負荷の少ないような形での施策も考えていきたいと思っております。

樋口龍馬委員

済みません、質問内容が間違っていたことをおわびして訂正させてください。

山本里香委員長

ほかに。

小林博次委員

ちょっと関連させてください。これ多分商工農水部の範疇やと思うんやけど、商店街の中で新しい人たちは組合にも入らんし、もちろん外灯の金も出さん、電気代ももちろん、ですから、うっかりすると2割ぐらいの人で全部負担しているということがあると思うんやね、これが現実として。しかしよう見たらそれは防犯外灯の役割も果たしているのに市のほうが金入れるべきじゃないのかという、こういう考え方が当然出てくると思うんやけど、そういう考え方に立っていくと行政の対応がちょっとまずいなというのが一つと、それから、諏訪商店連合会の、だから1号線商店街のほうがLED化と防犯外灯を取りつけた。そうすると、駅東全体に順次波及させていくことが投資効果が上がってくるということにつながると思うんやけど、そういう角度の取り組みがちょっと見受けられやんと思うんで、だから、たかが防犯外灯と思わずに一つの四日市市の政策、商業振興の政策の一つとして問題提起したほうがいいと思うんやけどね、決算やからそれ出てこんのやけど、一遍無理に導き出して新年度に結びつけてもらいたいなと思うんで関連で質問した。

山本里香委員長

防犯外灯として。

加藤商工農水部参事兼商業勤労課長

商業勤労課でございます。

小林委員ご指摘のようにまさに安全安心の根幹にかかわるものというところで、本来であれば市民から言えば商店街あるいは自治会という垣根なしで、四日市市としていかにそういう安全な部分を確保するというのが一番大事かと思っております。それでLEDに関しましても基本的には補助するのは1カ所、特定のところというイメージではございませんので、市内の中での郊外の商店街も、今回、平成24年度から、スタートしましたけれども、その関連で私どもも政策を周知をさせていただいて、今、具体的に取りかかろうという動きも出てきておりますので、またその節はよろしくお願ひしたいと思います。

小林博次委員

その節はよろしくでわかったけど、ちゃんと銭出すんやろうな。このぐらゐの補助制度つくるからよろしくと言われたらようわかるんやけど。

加藤商工農水部参事兼商業勤勞課長

LEDの推進という意味での要綱はもうつくってございますので、それに基づいて進めていきたいというところでございますので、それについてまた予算要求等も含めてお願いしたいと思います。

山本里香委員長

ほかに。

森 智広委員

樋口委員に少し関連ですけれども、中心市街地活性化促進事業の歩行者天国事業なんですけれども、これ、一応、1万9000人と8000人とありますが、これのカウントってどういう基準でやられていますか。

加藤商工農水部参事兼商業勤勞課長

商業勤勞課でございます。

具体的に当初のところはこれまでのいわゆる主催者発表的な要素で出ておりました。平成22年度の4回目、5回目、平成23年度の6回目におきましては実際に市道西町線、近鉄とスターアイランドとの間の、近鉄のほうからふれあいモールへ横断歩道渡られる方、あるいは一番街のほうから逆に西のほうへ横断歩道渡られる方、それと中央通り側の近鉄百貨店の南側から東向いて横断歩道渡られる方、逆にジャスコの跡地のほうから西のほう向いて横断歩道渡られる方、それぞれ4カ所で実際にカウンターではかりまして、その数字の合計ということでこの部分について把握してございます。なかなか正味そこだけに見えた方という把握は難しいかと思うんですが、そのエリアの中に足を立ち入れた方という形で数字が出てございますので、結果としましては1回、2回、3回と数字も大体合ってきているのかなと。これは結果論でございますけれども、そういう形で、それと、あとはあえて1回目、2回目は開催の祭りとか同時開催をしておったわけでございますが、単体でやったらどういうことになるかということも含めて、同時でやったり単体でやったりと

ということで今いろいろ検討しております。

森 智広委員

これは恐らく通行者数だと思うんですけども、これ通常何人くらい通るかという把握はされていますか。ふえたのか、いや、普通に8000人が通るような交差点なのかもわからないですし、その辺というのは全然わからないですか。実は前回行かせてもらったんですけど、あまり人がおらんかったのでほんまかいなというところで質問させてもらっているんですけど。

加藤商工農水部参事兼商業勤労課長

商業勤労課でございます。

前回というのは3月のときでございますね。このとき、今までに雨が2回降っていて、この3月がもう10時ごろから断続的な小雨といいましょうか、雨が降ってございました。そのあたりにつきまして実感としてはなかなかこれ難しいと思うんですけども、森委員がおっしゃられたように通行量に近いものが実態だと思います。あとは天気次第でこれ保育園とか幼稚園も事前周知をしておりますので、ほぼお子様連れというか家族連れの方がいわゆるミニSLとかいろんなところを目当てに来てみえるのは間違いございませんので、この数全てがそこで滞留されたかということ、ちょっとご指摘のように通行人も入っているというのは間違いのないと思いますので、その辺はある程度差し引いた中でさらにいかに魅力のあるものを続けていくか、それと定着したものとなるのかということら辺に力を入れていきたいと思っております。

森 智広委員

この事業というのは完全に市の職員の方が中心となってやられているんですか、連携等とはとられている事業ですか。

加藤商工農水部参事兼商業勤労課長

商業勤労課でございます。

こちらにつきましては委託事業でございますして、当然我々も内容等は見守っておりますけれども、いわゆる委託の中で業者のほうで対応していただいております。あとはそれぞれ

の連携をしていただく司厨士協会のほうであったり、そういった部分の連携もございましたので一体としてやっているというのが現状でございます。

森 智広委員

中心市街地でイベントがふえてくる中で、完全に民間の方がやられていって補助金を出していくというスタンスのイベントも結構ふえてきているので、何がいいのかってちょっと整理していただいて、じゃ、補助金ふやしていこうという発想がいいのか、じゃ、市が主催になってやる事業がいいのかっていうのはちょっとまた整理が要るんですけども、民間がやることに積極的にサポートしていくというスタンスも大事だと思うので、この辺のすみ分けというのは今後整理していただきたいなと思います。これは意見です。

一旦ここで終わります。

加納康樹委員

それぞれに関連する形でお伺いしますが、歩行者天国事業に関して、私、第1回から行ける限りは行っていますが、決算ということでいくと前年度をどのように総括されるのかというのを伺いたいと思います。眺めていると明らかにじり貧なのは事実かと思うんですが、どのように総括をされていますか。

加藤商工農水部参事兼商業勤労課長

過去にこれまで7回実施してまいりましたので、1回目のときはかなり雨に降られたという特殊事情はございますけれども、定着してきたという思いもございますが、一方でマンネリとは言いませんけれども、それに近いものがある。また同じことをやっているのかなという捉え方もあるかと思しますので、その辺につきましては先ほど森委員もおっしゃいましたけど、新たなアイデアといいましょうかね、そんなものも入れていく必要があるのかなという時期に来ておるといのは正直認識してございます。今後どのような形でという部分につきましては、いろんな商店街の方もそうでございますけれども、これは市がやっている、これは商店街がやっているというような、それぞれのイベントが個々にやっているという状況が今はやはりありますので、いかに連携をしながら年間スケジュールの中で、歩行者天国があるのであればそれに伴っていろんな商店街も連携してやっていくというようなところ辺の連携をさらに努めていく必要があると考えてございます。

清水商工農水部長

私の歩行者天国事業の感想はやっぱりちょっと今言いましたようにじり貧であり、ちょっとおしゃれ感覚がないなど。委員長からも、もうちょっとおしゃれ感覚出したらどうというご指摘もいただいていますので、今、私がちょっと指示を出していますのは、あそこに机を並べて憩えるようにしていただくんですけど、ちょっと憩い感がないもので、ちょっと緑を配置しながらオアシス化をなささいというふうな形で、ことしは、これ、10月21日、ファミリー音楽コンクールにこれはぶつけるという形でこれを開催して、ちょっと憩い感、緑感覚を出してオアシス感を出して、ちょっとゆっくりしていただくような形でことしの10月21日はやってみたいなというふうに今考えておるところでございます。だから、これからもいろいろ新しい発想を取り入れながら、マンネリ化しないようにやっていく必要があるのかなというのが今までの私の感想です。

加納康樹委員

そうですね、定着で今回は秋の祭りじゃなくてファミリー音楽コンクールに当てるということで、それもいいのかなと思います。そして、となると今年度的にはそれと、ここ数年の経緯で見るとまた3月ぐらいにぎりぎりもう一個突っ込むというご予定なんですか。

加藤商工農水部参事兼商業勤労課長

商業勤労課でございます。

3月の部分はある程度定着した形で考えてはおります。逆にこの10月、11月あたりでございますでしょうか、過去に第2回目ですけれども、11月21日、11月22日のときにふるさと産品祭りと同時開催をしたところですが、当時の担当者に聞きますととても寒くていられなかったというのがその状況でございますので、あとは平成22年6月の父の日に絡めて乳製品のバターづくりとか、そんなことも絡めてやってみたんですが、6月もやっぱり梅雨の時期というのもいろいろございまして、結果的に一つは10月ごろ、もう一つは春休みの1週前の日曜日になりますけれども、3月というのが一つのイメージでは持っています。

加納康樹委員

本当にいろんなアイデアを出して、何とかスタートしているところですので、踏ん張りどころかなという感じがありますので、ぜひ頑張ってくださいと思いますし、テナントさんあたりの呼びかけも何となくという感じ、委託をしているのでそうなのかもしれませんが、もうちょっと魅力あるようなケータリング業者さんあたりの招聘とかいうところもお考えいただければなとは思っておりますので、ぜひ頑張ってくださいと思います。

以上です。

小林博次委員

この市道西町線やけど、商店がないんやわね。夜の商店と駐車場とホテルと、だから、歩行者天国にして何か客引きつけるような相乗効果が出るということがないわけやね。よそのやつ見たけど、ずーっと商店があって、車もとめて、そこで自由に何かをする、イベントをしてなおかつ集客をふやす、こういうことがあるんやけど、ここんところはどうもその辺が感じられやんのやけど、その辺はどうなっとんのかね。

加藤商工農水部参事兼商業勤労課長

商業勤労課でございます。

この歩行者天国の思いとしましては、やはり市道西町線、幅の狭い道路ではございますけれども、横断歩道、信号一つでかなり駅の東へ誘導するには一つのネックになっているのかなというところで、そこを一体とする意味で歩行者天国を実施しております。ただ、その先、東側といかに連携をしていくか、その歩行者天国でも、部長もおっしゃいましたように、憩いながらさらに東のほうにも足を運ぶような仕掛けというのも当然必要であると考えてございます。

小林博次委員

いろいろ研究してほしいんやけどね、例えば近鉄でもこの市道西町線のほうは何か別にウインドーショッピングもできない、スターアイランドは戦災復興の中で近鉄にあの土地を渡して、あの辺の商店街を引っ張ってもらうために渡したけど、実際にはそういう効果が出てない。だから、近鉄に申し入れて歩道側にウインドーショッピングができるぐらいの、それから、入り口もつくってもらうぐらいのことをしてもらおうとまた生きてくると思

うんや。だから、その辺が全然ないし、それから、ここを歩いてくれというのが目的と違うわけで、買い物だとか、そういうものと連携して初めて効果が出てくるわけで、そうすると、駅東側に客を吸い寄せると、そういうものが少ないと思うんやね。スーパーサンシに馬力をかけてもらえれば生鮮食品を中心に客は引けるかと思うんやけど、だから、東側に例えば露天でメンズファッションでも何でもええんやけど、1000円か1500円ぐらいのものをびゅーっと露天に売り出す、こんなような企画をしたり、ほかもあるんでいろいろそういうことと連動させてこういうものが企画されると、ちょっと宣伝するとやってくると思うんやね。だから、もうちょっと種と仕掛けをつくらんと、ここが歩行者天国よというだけでは人が来ないんで、だから、もうちょっと来れるような種と仕掛けを工夫してもらおうと、駅東商店街そのものも起爆剤として発展できるんやないのかなというふうに思うんで考えてください。

加藤商工農水部参事兼商業勤労課長

ありがとうございます。

考えてはおりますけど、なかなか結果につながってないところもあるかわかりませんが、種の仕掛け、おっしゃったようにまさにあれだけの狭い面積のところでございますが、一つのを売っている、これがいいなと市民の方が思われたら、いや、実は駅東のあそこの店で手に入りますよとか、食べ物であればこういった食材があそこで手に入りますよというような、次につながるというところをご指摘いただいたと思いますので、その辺の仕掛けについてはまた十分に勉強していきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

樋口龍馬委員

小林委員言われるとおり、商店街の売り上げがこれをやったことによって下がっては意味がないと思うので、食べ物の店いっぱい持ってきてくれるのはいいんですが、各商店街の反応もちょっとフィードバックで持ってきてほしいと思います。あまり食べ物の店を持ってくと商店街の食べ物屋がもうからんといかんで、このときに確実ににぎわっているのかどうか、そこの食べ物屋さんを呼ぶ部分よりも、イベント的な部分で盛り上げてもらって、食事は商店街の中でとってもらうぐらいのことを考えていただくなり、商店街の方に出店を提供していくような場というのを考えていっていただかないとちょっと目的が薄らぐと思いますので、これやったことによって商店街の売り上げが上がったという

のが一番の成果やと思いますんで、そこだけ確認をしていただきながら、さっき商店街の人たちと事業を組んでということも言ってみえましたが、より深い連携でどういうことをやってほしいんだという聞き取りもしていただいて、一番ええのはやっぱりあそこのパチンコ屋の前にアーケードをつくってもらうのが一番ありがたいんですけどね。できれば、そうですね、10年分の予算をためといてアーケードをつくってもらったらどうですかね。

森 智広委員

この決算の370万円程度ですけれども、これ事業の中身というのは委託しとるんですね。委託しとるから中身ってわからないですか。その明細というか、決算部分で。

加藤商工農水部参事兼商業勤労課長

商業勤労課でございます。

明細までは求めてございませんが、大道芸人であったり、そういったミニSLを誘致するというのは当然お金がかかってございます。そういったものが主な内容になってございますので、あとはオープンカフェ用のテーブルとパラソルというようなところ辺のリース代というのが基本的には主な内容になっております。個々の具体的な明細まではちょっと求めてございません。

森 智広委員

ちょっと繰り返して申しわけないんですけども、この決算資料の6ページにいろいろ説明が書いてあると思うんですが、例えばイルミネーション事業で200万円かけていたりとか、例えば戻ってもらって2ページの、これの大きいやつです、太いやつです、委員会資料ですね。6ページにこの予算の詳細書いてあると思うんですけども、その下でイルミネーション事業に200万円をかけていると。4ページに戻ってもらって2ページで各商店街活性化イベント事業というのがあるんで、総事業費が並んでいるんですけども、明らかに費用対効果という意味では劣っているのはもう間違いないので、やっぱり民に任せるところは本当に民に任せながら行政が資金サポートしていくような形に思いきって変えていくというのも一つやろうと思いますし、やっぱり委託している業者に対してももっとね、圧力じゃないですけど、プレッシャーをかけて盛り上げていくようにしなきゃいけない。もうやったという実績残しではないので、その辺やはり効果が出るように今後お願いしま

す。

加藤商工農水部参事兼商業勤労課長

商業勤労課でございます。

ご指摘のように委託ということでそのまま任せておるというところではございませんが、さらにこちらのアイデア、指導も含めて十分徹底していきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

山本里香委員長

この歩行者天国事業について、よろしいですか。

森 智広委員

もう要望という意見ですけれども、ちなみに、これ、一応市の事業として委託して歩行者天国事業をやっているんですけれども、仮に民間の方がこういった事業をしようと思ったときにも、これは市としては認めていく方向なんですか。市がやるから歩行者天国事業が可能というわけでもない。民間の方が歩行者天国事業でイベントしようと思った場合にも市は積極的に協力していくというスタンスでいいですか。

加藤商工農水部参事兼商業勤労課長

商業勤労課でございます。

ご指摘というか、ご質問の件につきましては物理的には市でなければならないということはないと思います。いわゆるご承知のように道路使用許可というのが警察が必要でございますし、道路占有許可といいますとまた市の道路管理課のほうでの形になってまいりますので、内容に応じまして中心市街地の活性化、確かににぎわいにつながるというものでありましたら、商工農水部としましても例えば必要であれば副費を出すような形での側面的な支援は十分考えられますので、市唯一のものという認識ではございませんので、ぜひとも民間のそういった参画もいただければと思っております。

山本里香委員長

それでは、12時に近くなりましたので午前の部はこれで終わりたいと思います。

一つだけ私からこの件で質問させていただいていいですか、ごめんなさい。

市道西町線のこの歩行者天国事業もいろいろと皆さんでご検討されながら、苦しい状況の中で新しいことをやってみえるんですが、商店街の絡みなどもあるとは思いますが、もっと何か楽しめるような、また、市民の方が集まってきて、商店街の中も通って行って、それこそおしゃれな状況が演出できる場所が中央通りなんかにあると思うんですね。あそこではどうもイメージが貧困、今は貧困でもって何かぐっと迫った感じで圧迫感があるし、何か子連れの方が青空のもとでというイメージが少ない、小さいと思うんですけど、あそこにこだわるのですか。

加藤商工農水部参事兼商業勤労課長

商業勤労課でございます。

委員長ご指摘のとおりでございます。私もあそこだけにこだわるつもりは毛頭ございませんし、本来であれば中央通りというのが一番のあるべき姿であるとは思いますが、ただ、一方で本当に2車線、3車線のメイン通りですので、一つは中央分離帯の北側をとめながら南側の道路で相互に通行ができるかどうかと、いろんなアイデアは持っておりますけれども、実際にそのあたりの交通規制も含めて今後の課題であるというのは念頭にはございます。そういった形で、結論から申し上げますと西町線だけにこだわるということではないというところだけご理解いただければと思います。

山本里香委員長

ありがとうございました。

それでは、午前の部をこれにて終えて午後1時から再開をしたいと思います。よろしく申し上げます。

11:57 休憩

13:00 再開

山本里香委員長

それでは、午後の部を始めさせていただきます。

それでは、商工農水部の2課の関連部分について質疑を続けます。

質疑のある方、ご発言をお願いします。

荒木美幸委員

障害者の雇用のところでちょっとお聞きをしたいと思います。委員長が依頼された障害者トライアル奨励金支給事業所における支給対象障害者の定着状況の資料はいただいているのですが、トライアル雇用以外のいわゆる障害者の雇用奨励金を支払っている企業、4事業所、そして、33名についてですが、この方たちのその後の雇用の状況というの
はわかりますでしょうか。

山本里香委員長

障害者の雇用奨励金の内訳ですね。

荒木美幸委員

工業振興課さんですね。トライアル雇用のほうはこちらに資料をいただいていますので、14名中の13名が雇用継続されているというふうにわかるんですけども、奨励金を支払った33名の状況、6カ月にわたって補助金をということですが。

東内商業勤労課主事

商業勤労課の東内でございます。

平成23年度の障害者雇用奨励金の就業状況についてご質問をいただきました。33名の方につきましては全員継続で奨励金を終わった後も雇用されていると伺っております。ただ、その後に自分のご都合でお一人退社をなさった方がいらっしゃるというふうに聞いております。

以上でございます。

荒木美幸委員

ありがとうございます。

来年度の4月にまた率が上がっていくという中で、しっかりとこれもお願いしていきたいと思うのですが、いろんな企業に対しての働きかけも重要だと思いますけれども、例え

ば市からお金が出ている指定管理者の状況についてはおわかりでしょうか。把握してらっしゃいますでしょうか、障害者の雇用率ですけれども。

山本里香委員長

指定管理の部分での障害者の雇用率。

加藤商工農水部参事兼商業勤労課長

商業勤労課でございます。

指定管理者でいわゆる申請対象となりますのが、私どもの所管しておるものはアクティオ株式会社だけでございます。あと四日市諏訪西商店街振興組合につきましては報告義務はございませんが、障害者の雇用としては四日市諏訪西商店街振興組合のほうはゼロとなっております。アクティオ株式会社のほうにつきましては2.38%、これは会社全体での数字でございますけれども、2.38%ということです。

荒木美幸委員

ちょっとお聞きしたいのですが、先日財政経営課のほうから指定管理者制度の説明というか、協議会があったときに、所管事務調査の資料をいただいているんですが、例えばまちづくり振興財団とか、そういったところは障害者の雇用率がゼロというような資料をいただいているんです。そういったところに関しては特にアプローチをするということはないんでしょうか。

加藤商工農水部参事兼商業勤労課長

商業勤労課でございます。

障害者雇用につきましては商工農水部が第一義的な窓口にはなりますけれども、全庁的な対応で昨年から実施をしております。各補助金とかいろんな文書を出す場合に、商工農水部のほうでもカウンターにも置いてございますけれども、障害者の方の雇用についての要請といいましょうか、そういった文書も置いてございますし、指定管理者におきましては財政経営部のほうからも該当事業者のほうに、そういった足を運んで要請をするなり、文書での通知をしているというのが状況でございますので、全庁的な対応はしてございません。

荒木美幸委員

じゃ、全庁的にということに対応していただいているということですが、拝見する資料、その指定管理者の資料を見ますとやはりまずいろんな企業も大事ですが、足元のこういう指定管理者等の市のお金が払われているところの障害者雇用率がゼロのところがあったり、低いところがあるということなので、そういったところもあわせて意識をしながら啓蒙していただきたいなと思いますのでお願いをいたします。

以上です。

山本里香委員長

ほかに。

伊藤 元委員

何点かお聞きをしたいんですけども、まず大四日市まつり事業補助金、それから、四日市花火大会事業補助金についてですけど、よろしいですね。

山本里香委員長

はい。

伊藤 元委員

いつも本当に盛大に行っていただいとるなという感じはするんですが、これに対して補助金をということになっとるわけですが、大分前にこのイベントについて小林先生が1度、お怒りになったときがあったと記憶しているんですが、これ行政主体というか、行政指導でやっとる祭りなんか、市民の人たちから湧き上がった祭りなのかというところでもかなり物議があるかなとは思いますが、観客動員数、先ほどの歩行者天国事業のときもありましたけれども、この辺の分析というのが約37万人というふうに今回記載がされとるんですね。昨年度よりはこれ38万人から37万人やから1万人減とんのやけど、この辺の算出根拠というのはどうなっとるんですか。先ほどは一応通行人の方をカウンターで数えとるというけれども、数えれないですよ。もう概算ざくっと見てこうやって37万人ぐらい来たんだらうということで書いてもらってんのやろか、その辺まずちょっと教えてください。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

ご質問いただきました観客動員数でございます。これは主要施策実績報告書の13ページ、14ページに大日市まつり事業補助金と四日市花火大会事業補助金を掲載させていただいております。ご質問にお答えいたします。平成23年度、約37万人、前年より1万人少なかったというご報告を平成23年度の決算としてはこのとおりさせていただいております。これはいわゆる主催者発表ということでさせていただいております。この平成23年度でございますのでこういう形ですが、前年の決算委員会でしたか、先ほどのご質問にありました観客動員数の算出根拠ということで昨年からもご質問をいただいております。実はことしこの8月4日、8月5日の祭りにつきましてはちょっと違った考え方で、根拠をより詳しく持とうということで試算を実はいたしました。

これにつきましては資料にはもちろん入れておりませんが、実際にやったことを簡潔に述べますと、三滝通りと諏訪新道の交差点あたりの10m10m、三滝通りがございますね、百五銀行の角の三滝通り。それと諏訪新道の角、文化財行列とかいったところで一番人が寄るところかもわかりません。その諏訪新道の道幅は10mなものですから、その10m、それから、延長の10mで100㎡をちょっと抽出しまして、その時間帯で平成24年8月4日、8月5日の2時間ずつ、2時間置いてそのまた2時間後ということで人を調べました。事務局で数えました。それで、その100㎡の面積を祭りの会場である諏訪新道、それから三滝通りの人が多いところ、それから、道をまた一番街のほうに渡って大通りですね。支線といいますか、ちょっと細いところはもう抜いてありますが、その面積もこのごろはGISといいますか、地図で簡単に割り出せますので、この100㎡での人数を全体の祭りの会場の面積で割り出しまして、それで算出をいたしておりますが、試算でいいますと平成24年8月4日の土曜日は6万5000人、それから、平成24年8月5日が10万2000人、合わせて16万7000人ということで算出をさせていただいております。これが宿題をいただいたことに対しましての試算でございます。

長々済みません。

伊藤 元委員

ありがとうございます。

ということは、今回は新たにそういうふうな10m四方やね、100㎡やね。100㎡の人の密

度から大体算出してきたということによろしいですね。それで、それはそれとして一つの算出する手法かなと思うんですが、例えばさっき平成24年8月4日、8月5日って言うたっけ。平成23年8月6日、8月7日だね。平成24年のやつか、今のやつは。この決算のやつ表でいけば平成23年8月6日、8月7日なんやけれども、それで、それぞれの日にちにいろんな催しがありますね。例えばこれ催し別にね、その会場の人口密度とかいう形ではかってみるといことはやっていませんか。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

それはやっておりません。

伊藤 元委員

全体的な動員数だけを見るのではなくて、やっぱり個々のイベントに対してのお客さんの関心度というの、やっぱり分析していくべきやないかなと思うんですよ。それでやっぱりよりよい祭りづくりという観点から見れば、やっぱりどれやってもある程度の人に来とるから見てはくれるけれども、それでもやっぱりそれが充実していくような形に持っていこうというふうに思えばね、やっぱりその辺はどういうものが人気があるのかという形でやっていくべきではないかなと思うんですよ。それで以前はこの祭りの中身の内容やけど、いろいろテーマを持ってやっとなかかなというふうに記憶しとって、ここ数年は踊り中心というかね、何かそんな形になってきたんかなと思っとるんですが、やっぱりその辺を中身の濃いものにしてほしいなという思いがあって、せっかく補助金を出しとるわけですから、やっぱりその辺の観点もしっかりと分析していただいて、いろんな人たちにいっぱい出てきてもらってね、楽しんでもらえるようにしてほしいなという気持ちがありますので、一遍そういう個別のね、イベントごとにというのもひとつ次回やってもらえるといいかなというふうに思いますので、ひとつその辺はよろしく願いしたいと思いません。

それと四日市花火大会のほうなんですけど、前年と同じで20万人、これもどういう感じで今回はやったんでしょうか。ちょっと花火大会のほうについてもちょっと教えてください。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

四日市花火大会についてでございます。平成23年度につきましては20万人、前年度と同

じということでございます。先ほど祭りのほうで申しましたことを花火大会でもやろうとは考えてはありました。実は花火大会は会場がしっかり区切れるところと、それと富田地区の人、富洲原地区の人、羽津地区の人、千歳町から見る人、非常にそれは難しゅうございますので、これはことしも昨年と同様に主催者発表とさせていただいております。まだ考慮するところもあるかもわかりませんが、平成23年度はここに書いてあるとおりことしも同程度という形で発表させていただいた次第でございます。

伊藤 元委員

これもやはり有料観覧席もあったりして、きちっと皆埋まっておるのかどうか、そして、またその周辺はどうか、それでやっぱりその周辺の家とかマンションから見とる人らはどれだけおるんか、大体概算にしかならんと思うんやけれども、やっぱりそれぞれのところから見とる人らの人数把握というのもやっぱり大事ななと思うんですよ。それで、それは何でかというといろいろとまたそこの会場に行きたいけど、混雑するのが嫌やでとかさ、いろいろな見方があって、私も昔はよう行っておったんやけど、もう最近数年間ほとんど行ってないんやけど、そやでやっぱりせっかくするんやでいろんな形でその辺楽しめるようにしてほしいっていう思いがあってね、それで補助金の使い道としてやっぱり費用対効果は大事なところですので、もっときちっとその辺の集客人数、来場者数というのはいろんな形で分析していただきたいと思いますので、ぜひその辺もまた次しっかりとやっていただきたいと思います。

それと安全確保のため最大5号玉の打ち上げとしたということやけれども、5号玉が一番大きな玉やったわけですか。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

保安距離というものがございまして、最大で5号玉が上げれる距離ということになってございますので、最大で5号玉ということでございます。

伊藤 元委員

ちょっと余り詳しくないんやけど、5号玉というと中くらい規模の玉やね。よう尺玉っていうやつがかなり大きなやつで1尺玉、2尺玉とかいうのがあるんやけど、そういうものはなかったんですね。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

はい、おっしゃるとおり5号玉が最大でございまして1尺玉というのはございません。

伊藤 元委員

そうすると、その尺玉というのは許可とれないのかな。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

ええ、許可がとれません。保安距離の図面を提出をするわけでございますが、その許可がとれる最大が5号玉ということでございます。

伊藤 元委員

以前上げたことはなかったですか。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

以前は5号玉以上、6号玉以上といいますか、その5号玉より大きなものを上げておったと思います。ただ、北埠頭等の港で上げるという場所的な問題ということで、安全の確保をさせていただいておるということでございます。つけ加えて、5号玉では見応えがしないというようなこともあるかもわかりません。これ、ご質問に答えているかどうかわかりませんが、それにつきましてはミュージックスターメイン、あるいは連発で打つというような工夫を花火師、3社がございまして、そこで工夫をして四日市ならではのものを上げるというところで、一つつけ加えますと間近で見れるというところも四日市の最大の魅力でございますので、そういったところでなるべく質を上げて取り組んでいきたいというところでございます。

伊藤 元委員

特色ある花火大会ということをアピールされておんのかなと思うんやけれども、私も正直花火は大好きなんやけれども、最近忙しいでなかなか出られんのやけどね、以前上げておって規制変わったんかな。努力が足らんのと違うのかなとか、あと、大きなやつを上げるとなるとお金もかかってくるで大変かなとは思うんやけど、細かなわざのある花火もお

もしろいけれども、やっぱり大きな尺玉がどんどんと上がるというのは迫力の感じ方がかなり違うと思うんですよ。例えばこれ決算の場なんやけれども、この花火大会についてのアンケート調査とか、そんなのはされておりますか。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

特に行ってはございません。

伊藤 元委員

主催者側で工夫されて頑張っていてもらうのは本当にいいことなんやけれども、やっぱりさっきも言うようによりいいものにしていてもらうためには、観客側のニーズというのをもひとつしっかり調査してね、つくり上げてほしいなと思うんです。それで、それがよくなってくればやっぱりよその人たちに、市外の人たちに、四日市市の花火大会を見に来てよと。さっきの大四日市まつりもそうですが、大四日市まつり見に来てよとって自慢できるようなイベントにしてもらうとね、我々市内に住んでおる者の誇りにもなっていくものなかなというふうにも感じますので、ぜひその辺はニーズに応えられるようにアンケートもとりながらぜひ進めてほしいなというふうに思います。

それと、ごめんなさい、もう一回ちょっと戻っちゃうけど、来場者数で市内と市外からとか、そういうくくりというのはわからんと思うけれども、例えば花火大会なんかやったら周辺に来る車のナンバープレートとかね、そんなので大体おおよそつかめたりもするかと思うんやけど、その辺はいかがでしょうか。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

伊藤委員のおっしゃられるところの、把握するための根拠等もちょっと考えましてお客様のニーズを把握するということ、そのあらわれである市内、県外、市外というところもご質問の趣旨かと存じますので、ニーズ把握について努めてまいりたいと思っております。

伊藤 元委員

ありがとうございます。ぜひよろしく申し上げます。

ちょっともう一つだけ続けてください。1回ここで切りたいと思いますが、四日市のユ

ーモアCM製作事業費についてですが、16本のCMをつくったということなんですけれども、この追加資料のほうを見せてもらいますと、そのときの費用、予算、776万7000円が実際支出額としては156万4500円で、この不用になった分はなぜなのかというのはもう一つのところに書いてもらってあんのやけれども、その辺の意味はわかりますが、正直、このユーモアCMを16本つくられたというけど、これ、僕言うとまずいかな、余り見たことないんやけど、インターネットだけ。それで、でも、この予算これだけ余っておるんやったら例えばテレビ、民放なんかに入れていくということなんかはどうなんですかね。ただ単に余らしたというのちょっと問題あらへんのかなと思うんやけど、いかがでしょうか。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

これについては大変申しわけございません。これについては不用額の表紙のところにも記載をさせていただいております。当初6カ月間で予定していたというものが4カ月に短縮したというところの理由と、それと予定価格に差異が生じたということで、予定額と差異が生じたこと、それと入札による落札額が少なかったので入札差金が生じたというところをご説明でございます。それでその余らせた620万円については大変申しわけございませんでした。これにつきましては事業完了が前年度末にずれ込んでしまいましてこういう形になってしまいました。これについてはおわびをする次第でございます。

伊藤 元委員

わびてもらわんでもいいのやけれども、もっと有効に使ってほしいなと思うんですよ。今私が言うたのは放送料と製作費ではちょっと違うのかなという思いもあるんやけれども、やっぱりつくったらそれをどんどん発信していくということ大事だと思うんですよ。ネット発信、これ最初からネット発信だけで計画したことでしたっけ。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

ネット、YouTubeでの発信を想定して組んだものでございます。

伊藤 元委員

何ていうか、ほかにも媒体使って放送するとなるとかなりの費用もかかってくるのかな

と思うのやけど、例えば朝とか夕方とかね、せめて三重テレビとか、そこら辺、名古屋テレビなんかでもいいかなと思うのやけど、もう短くてもいいからぼんぼんと入れていくというのはどうなんかな、かなり費用かかり過ぎるんでしょうか。

清水商工農水部長

Y o u T u b e を使った発信ということでこれ設計したわけですけど、かなりのアクセスがございまして評判のほうはいいというふうに私どもは受けとめております。テレビという話もありましたけれども、最近私どものノーツなんかで掲示しておるんですけど、かなりの放送局が四日市市を取り上げていただいているという状況があります。例えばNHK、中京テレビ等々、最近何でこんなに四日市市を取り上げてくれるのかなというぐらい取り上げていただいているのが現実でございまして、それですと全くただでやっていただけのもんで、NHKでも30分から40分の四日市市の特集をやっていただいたり、全国版で、そういう意味でいくと非常にありがたいCM効果のある全国発信ができていかなというふうに私どもは考えておるところでございまして。

伊藤 元委員

それはやっぱり他力本願で、そういうふうに回りが見とるんであればやっぱりそういうところへあえてもっと突っ込んでいくということはどうなんかなと思うんですけどね、私はね。それでほっといてもやってくれるでええかということじゃないかなと思うんですよ。ネットのほうはちょっと幅はすごい広がるとるかわからんけれども、自分から見ようとすることせんとなかなか見れませんやんか。テレビはつけておけば、勝手に流れてくるで、ぱっと何気に朝の用事やっとなるときに四日市市のコマーシャルがぴぴっと入ると、あれっ、ってずっと目に入るわけですよやんか。それで、ああ、四日市市も頑張るとんのやな、というのがそういうところだろうかえたりもするのかなというふうに思うので、これにけちつけるわけでも何でもないんですけどね、ぜひそういうふうなことでもっともっとアピールしてほしいなって思って、エールを送った意味でちょっと質問させてもらいましたけれども。

清水商工農水部長

私の答弁がまずかったです。テレビがやっぱり取り上げてくれるというのは、やっぱり

四日市市の私ども行政も市民の方もいろんな団体の方も、いろんな四日市市の情報を発信しているということをつかんでいただいている、取り上げていただいたということですので、決して他力本願とは思っていませんけど、皆さんの取り組みが結実したものだというふうに考えてございます。

伊藤 元委員

とりあえず1回ここで。あと二つ。

山本里香委員長

関連してということで。

樋口龍馬委員

まず緊急雇用創出事業のところ、これ大変タイトなスケジュールの中でつくっていただいた事業だったというふうに覚えています。スタンプラリーのほうが、当初、補正の補正という形でかなりの増額をしてスタンプラリーのほうの事業をつくってもらったわけですが、CMのほうは雇用した方がやめてしまったと、4カ月でということなんですよ。当初これが出てきたときに相当議論があって、ちゃんと永続的な雇用につながっていくんだろうかという疑問が、緊急雇用対策で草刈りとは今回は違うんですけど、非常に部長の力強いお話が来てきたわけですが、その後の雇用状況というのは後追いはしていただいているのでしょうか。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

この事業の担当ということでお答えをさせていただきます。スタンプラリーにつきましてはこの事業が終わってから1人が継続して雇用、1人は残念ながら雇用は続かなかったというところで聞いております。それと、このユーモアCMにつきましては、緊急雇用で雇われた方のクオリティーが非常に高かったということで、自分でもそのような事業を立ち上げようということで予定をしておるということをお聞かせいたします。

樋口龍馬委員

そういうことであればいいかと思えますので、今後も本当に継続して緊急雇用対策の、

単発事業に終わらずに新しい職にありつけるようなというか、そういうものを組んでいていただきたいなと思います。

ちょっと違うところもよろしいですか、関連終わって。

山本里香委員長

関連ですか。

樋口龍馬委員

いえ、関連が終わって、今。

山本里香委員長

違いますね。はい、どうぞ。

樋口龍馬委員

夜景サミットが200万円で今回154ページに上がっているんですけども、夜景サミットにかかった分の費用を口頭でご説明いただいて、また事後で結構ですのでペーパーでもいただきたいと思います。どういう内訳で200万円かかってきたのか教えてください。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

夜景サミットにつきましては300名以上の参加をいただきました。各都市、四日市市を含む室蘭市、川崎市、北九州市、それに山口県周南市、それから、兵庫県姫路市というところからも来ていただきました。それを含めた300人の会場費、これは都ホテルで行ったんですが、その会場費が一つ。それから、工場夜景のツアーをクルーズで、これについては80人乗りの船を借り切ったというところも一つございまして、主な支出につきましてはそういったところでございます。あと、印刷物等の消耗品も主なものの一つでございます。

樋口龍馬委員

これ、200万円ジャストでは済まなかったということですかね。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

市の支出が200万円ということで、各都市の負担金もございまして、あるいは協賛金とかいうのがございまして、200万円ジャストではございません。

樋口龍馬委員

ありがとうございます。また、申しわけないんですけども、その紙は後日で結構ですのでいただきたいと思います。

あと、さっき伊藤元委員の質問の中で花火大会のお話があったんですが、私、有料観覧席よりちょっと離れたところで森委員と一緒に花火を観覧しておったんですが、火薬が降ってくるんですよ。なので、大きいのは難しいと思います。実際に現場に行った人間の正直な感想、もう目の中にかすが入ってくるので難しいんじゃないかというのを感じましたんで一言申し添えさせていただきます。会場で森委員も目に入ると言っていました。

森 智広委員

ちょっと別件ですけども、じばさん三重の運営費に対する補助金なんですけれども、4250万円というのは、これは恐らく取り決めがあると思うんですけども、これ、どういった取り決めで決められているんですか。

山本里香委員長

じばさん三重の運営費補助金。

佐藤工業振興課長

じばさん三重のほうですけども、こちらをつくったときは市町村とか広域の施設ということで隣接市町村、桑名市さんから菰野町さんとか鈴鹿市さんなんかメンバーとして入っているんですが、実際にそのときに出資しておりますのは三重県と四日市市だけでございます。ある程度の運営費につきましては市のほうも支援していきますという格好で始まっておりまして、その延長で現在も支出はさせていただいておりますけれども、もう少し補助金の削減ができないかということでいろいろ話は進めております。平成24年度は若干補助金を削減させていただいたところでもございます。それと、今、三重北勢地域地場産業振興センターのほうは公益財団法人の関係で公益法人化の手続を、今、県のほうと進めておりますので、それに当たっていろいろとじばさん三重でやっている店舗のほうとか、

いわゆるインキュベーターの関係とか、いろんな事業をこれが公益かどうかという仕分けも行ってあります。それぞれ事業を仕分けしております、その事業ごとにどれくらい人件費がかかって、どれくらい光熱費がかかってとか、そういうところを、今、仕分けをしております、それをもとにもう少しじばさん三重への補助金の出し方というのを整理をしていくということ、今、現在進めているところでございます。

森 智広委員

このじばさん三重自体の収益について、資料をまた後刻でいいんですけれども、いただきたいというのと、これ出資比率って今どのくらいになっているんですか。

山本里香委員長

出資比率ですが。

佐藤工業振興課長

三重県が700万円、四日市市も708万円と若干多いですけど、その他の各何とか何とか組合とかいうところとか、市町村を入れまして795万円、それぞれ県、市、その他で3分の1くらいずつでございます。全出資金が基本財産2200万円でございます。

森 智広委員

これ、ちなみに三重県の補助金というのは幾らぐらい入っているんですか、4250万円ぐらいですかね、大体、出資割合からすると。

佐藤工業振興課長

出資の時点では入っておりますけれども、通常の各都市ごとの補助金というのは四日市市だけでございます。

森 智広委員

実質四日市市が運営を1人で支えているという状況ですか。

佐藤工業振興課長

実態はそういう格好になっております。

森 智広委員

これも、今、見直しされているところなんで何とも言えないんですけども、これ当初からもう県は何も運営には口出さないという、そういう取り決めだったんですか。

佐藤工業振興課長

一番最初のつくったときの詳しいところまではちょっと私も存じ上げておりませんが、実質的には市にああいった施設をつくりたいというのが始まりだったと思います。ただ、そこで高度化資金でございますとか、県のいろいろな有利なお金を使っていこうという中では、広域施設としてやっていく必要があるというような議論があったようには聞いておりますけれども、実際の運営費については市が補助していて、市だけでしていきますというのが実態になっているのが現状でございます。

森 智広委員

そういう取り決めというかね、決まりごとだったらそれは仕方がないかもしれないんですけど、その辺の流れというのをまた資料をいただけますか。わかる範囲で結構なんで、いや、口約束でそういうふうにはなってないですよ、さすがに。

佐藤工業振興課長

済みません、そういった文書できちとしたものが残っているかどうかは、ちょっとこの場であると私断言できませんので、一応、調査させていただきます。

山本里香委員長

では、資料を、また。

森 智広委員

資料請求とともにそういうところを整理して、また県とも話し合いの場を持つべきなら持っていただきたいなと思っています。

もう一点ですけども、あと中小企業関係資金融資預託金事業なんですけれども、これ

は資料だけでいいんですが、今年度20億円の預託額を入れられたというところなんですけれども、期末融資残高が45億円になっていますが、その何ですかね、例えば貸し倒れ額があるとか、そういった細かいデータというのは今わかりますか。例えば貸し倒れって平成23年度はありましたか。

加藤商工農水部参事兼商業勤労課長

商業勤労課でございます。

貸し倒れと、この預託そのものは当然年度当初に、これ、12の金融機関と制度融資を構築する上で提携しておりまして、年度末にまた戻していただくということですので、資金繰りという意味で市が預託する上で3倍協調でありますとか、各12の金融機関にこの予算を分けてございますけれども、その預託額の基本的には3倍以上を貸し出してくださいというような一つの条件の中で銀行には貸し出しをしていただいています。一方で信用保証協会の保証もとりながらというところでございますので、この10ページの、もとの資料の10ページでございますね、先ほどおっしゃっていただいた中小企業関係資金融資預託金事業費の下のところの損失補償金という部分が、それぞれ保証協会が保証を持っておるわけでございますけれども、返済が立ち行かなくなったというところで焦げついた部分につきましては、保証の保険でありますとか、回収の努力もした上で、なおかつ焦げついた部分の一定割合を市がまた負担をするというような協定の中で実施をしておりますので、年度ごとの個別の件数は把握してございます。

森 智広委員

これは金融機関に事務手続を委託していて、リスクはもう金融機関が持つんですね。保証料は多少入れていると、そういう構図ですか。

加藤商工農水部参事兼商業勤労課長

市が直接お金を貸しているということではありませんので、金融機関の判断で保証協会の保証を取りつけた上でということでございますので、昔、以前は保証協会が100%の保証しておりましたけれども、あと一定割合、2割相当は金融機関がリスクを負うというやりとりの中で実施しておるというところでございますので、市としては中小企業振興資金融資で行きますと固定で1.7%、比較的低金利で運用できておるというのも一つの制度の

中でございますし、一定の保証料を市が補給することによって、中小企業が借りられるときに、1000万円借りられても保証料で例えば本来20万円引かれるところが10万円で済むとか、そういったようなメリットを持たしたような形の制度でございますので、最終的にはリスクという意味では保証協会と金融機関という部分が、貸すことに対してのリスクは負うという構図になってございます。

森 智広委員

済みません、細かい話で。でしたら、この例えば20億円分ぐらいが歳入の部分で入ってきておるといことですかね、ちょうど。

加藤商工農水部参事兼商業勤労課長

はい、そのとおりです。出と入りでございます。

森 智広委員

行って来きたいなあれですか。はい、済みません。

今回、最後ですけれども、こにゆうどうくんの話をさせてもらうんですけど、こにゆうどうくんが平成23年度に新しくなった、もっと前でしたっけ。もっと前ですか、平成23年度ですよ。こにゆうどうくんってどれぐらいするんですか。済みません、これ結構続くんです。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

端的に申しまして1体約50万円です。

森 智広委員

こにゆうどうくんの稼働実績というか、結構出ていると思うんですけども、年間どれぐらいイベントに使われたりされていますか。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

こにゆうどうくんは非常に活躍しております。毎週末とは申しませんが、実は昔のこにゆうどうくん、ちょっと古いこにゆうどうくんというのが1体、それから、今新しいのが

2体ということでございます。それを各地区の運動会であったり、あるいは私どもがPRとして、名古屋市や鈴鹿サーキット、いろんなどころのイベントに使っているのがございますので、ほぼ週末は予定が入っているというところで、数的にはあれなんですけど、そういう状態でございます。

森 智広委員

意見なんですけれども、ここにゆうどうくん、よくところどころで見させてもらうのすごい活躍されているなと思っていて、ここにゆうどうくんの増員ということもまた、視野に入れながらいろいろ四日市市を盛り上げるキャラクターの一つですので、よろしく願いますということで一旦終わらせていただきます。

山本里香委員長

はい、関連。

伊藤 元委員

今ちょっとここにゆうどうくんの話が出たもので、どなたであったかちょっと忘れたんやけれども、小林先生やったかな、言われとった、あのべろ。ここにゆうどうくんは国内で、特に市内が多いんやけど、活躍されとんのはいいんですよ、すごくね。それでゆるキャラやという感じがあってべろっとかわいいという感じもあるんですが、海外出ていくと文化の違いで何か舌を出すということがよくないということ、小林先生が言われとったね。そういうことがありますのでぜひその辺はちょっと外へ、ここにゆうどうくんの海外バージョンを工夫してもらおうといいかな。この間も、私、息子にね、四日市市の地図にここにゆうどうくんが載っていて、それで、何やったかな、何か書いてあったな。卓球で社会人の人が何か海外に出たときの記念バッジというのをもらったと言われていて、それをもらったんですよ。それでやっぱりそれ海外向きなんやな、このバッジと僕思ったもので、それで小林先生が言われとったんとちょっと頭の中で一緒になったもので、ちょっと気づいたほうがいいのかなということを思いましたので、ちょっとその辺配慮していただきます。

関連は終わります。

山本里香委員長

では、こにゅうどうくん関連ですが。

それでは、関連切ります。

石川善己委員

観光対策事業費のことで伺います。去年、観光元年ということで市長の肝いりで観光推進室設立ということだったんですけれども、観光集客数その割には前年度に比べて1万人強減っているというところを踏まえて、まずはちょっと見解を聞かせていただけますか。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

ご指摘のとおり、観光はまだまだ集客数の増員に至ってないというのが数字で出ておると思います。これの一つの原因には東日本大震災の影響もあるかも知れません。それで、この集客数を伸ばすようなことも考えていかなければならないとは考えておりますが、当初、平成23年度はまちのイメージアップ「みんなが誇りを持てるまち、四日市」ということを念頭にイメージアップに努めたという1年でございます。

以上でございます。

石川善己委員

前から言っておるんですけれども、観光ってやっぱり県外、市外から来て四日市市にお金を落としてもらって何ぼだと思うんです。市内の人が市内回ってお金落としても結局中でぐるぐる回っているだけにしかならるので、多分、情報としては入ってみえるとは思いますが、平成24年度の県内の観光施設の入客者調査ベストテンが出ています。1位は当然伊勢神宮ということになって、以下、ナガシマリゾート、おかげ横丁、二見興玉神社、鈴鹿サーキット、鳥羽市旅館街がだーっと続いていくんです。四日市市ってベストテンはもちろん何も入ってないという状況の中で、この実績数を見ておると10位の湯の山温泉単体で113万4000人という、そういう状況も踏まえた中で、このまま行ったら結局観光元年、観光推進室独立というのが単なるかけ声倒れに終わってかへんかなというのをすごく危惧をしています。新しい発想でさらなる集客を図ってまいりますということで説明のほうには書いてもらってあるんですが、何かその辺の一端があれば聞かせていただければと思うんですが。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

平成23年度は観光元年ということでこのような状態であるということは確かでございます、ただ、平成24年度、今年度につきまして少し加えさせていただきますと、昨年11月に観光戦略、四日市観光戦略というのが提案をされました。これにのっかって、今、現在も四日市市に例えばコンビナート夜景クルーズ、あるいは、広域的な考え方で先ほどのナガシマリゾートとか伊勢神宮などに来ていただいた、これからも来ていただくであろう方をいかに四日市市に、交通の要所の四日市市にお泊りいただいたり、お食事いただいたり、こちらとしてもおもてなしをしたりということが重要かと存じます。ここら辺は観光戦略にも書いてございまして、そういった意味で現在の柱であるコンビナート夜景クルーズを柱にしながら、その帰りにまち中で飲食をしていただくということも重要かもわかりません。その一つの動きとしましては、民間の有志が四日市観光戦略に従って、かぶせ茶ハイde街飲みというのも今チケットを売って、今月15日から始まろうとしております。まち中にはのぼりも立っております。ここら辺から若い事業者の方々も取り込んで、そこでおもてなしをするというところの動きも出ておると私どもは思っております。こういった輪を広げていくということが、これからの一步一步の歩みになるんじゃないかということで、しりつぼみにはなりませんし、何とぞもう少しお時間をいただきたいというようなことは思っております。

石川善己委員

しりつぼみにならんようにと思って期待をしていますので別に責めているわけではないんですけども、ぜひ何とか一生懸命取り組んでいていただきたいなと思っております。やっぱり前も言ったんですけど、何か目玉になるものがないとなかなか、さっき話に出たところというのはやっぱり何か目玉があって、それに付随するものでしかないのかなと思うんです。やっぱり核になる何か目玉、集客になる目玉がないとなかなか観光と言っても難しいんじゃないかなと思うので、ある意味一点集中で何か目玉になるようなものを工夫していただきたいと思っております。

ちょうど、今、話の中に出たんで続けて聞かせてもらおうと思っていたところへ入らせていただきます。観光推進事業の中の四日市市観光戦略会議、57万1265円ということで支出があったと思うんですけども、3回の会議を開催をして云々ということで単純計算すると1回当たり20万円ぐらいなのかなと。大きな項目でどういったことに使われているの

か、もちろん交通費であるとか、会場費であるとかというのが主になると思うんですが、それ以外に何かあるのであれば教えてもらえたら。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

四日市市観光戦略会議の委員さんが6名ございまして、その委員さんたちの報償費というお礼ですね。報償費と費用弁償、先ほど委員が申されました交通費というところが主でございます。

石川善己委員

ありがとうございます。

逆にもうちょっとふやしてもいいのかなと思ったりするんです。中途半端な額じゃなくてしっかりと観光戦略会議をやっていていただかなければならないという思いはあるんです。その中で本当にメンバー的にこのメンバーでいいのかなという部分は正直疑問があったりするんです。というのが、1個1個がええとか悪いとかという部分になっちゃうんですけれども、前に新聞で見たときにこのフレーズって、僕、本当にええのかなって思ったのは「よそみ（四十三）をすれば、四日市」って、「よそみ」っていう言葉が本当に前向きな観光のイメージになるのかなって、はっきり言って観光戦略会議の中でこんな言葉しか出てこないのかなというのが、そのときに感じた本音です。このメンバーの方で本当にいいのかなという議論もあるんで、額をふやすならふやしてちゃんとした方でやっていただかんとあかんのと違うかなっていう気がします。これはもう意見になっちゃうんですけど、僕、メンバーの方とは面識もないですし知らないんですけど、そんな言葉が出てくるとするのは正直個人としては遺憾です。

山本里香委員長

そのことにお答えあるんですか。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

私どもの観光のキーワードを四十三といたしました。四日市市、三重県のそれぞれの名前をとって四十三、43番目の東海道の宿場町ということで四十三、それから、県と市で数が入っているのは三と四で、三重県だけ、四日市だけやということで四十三、この四十三

をキーワードとしております。今、石川委員のおっしゃられたよそみというのも賛否両論ございます。私どもは今そういったご意見も承りながらも、この四日市市の観光を四十三というキーワードで行きたいと思っておりますし、提言をいただいた観光戦略会議のメンバーのことでもございますが、メンバーにつきましてはこの提言をそのままやるのではなくて、入り口を一度やってみると。それで見直し戦略を変えていくということがこの戦略の柱でございまして、いろいろな方々のご意見も賜りながら見直しするところは見直し、進めるところは進めということをして今年度もこのメンバーの戦略会議の方々に、一度、今、現在進めているところを再検証していただくということで予定をしておるところでございます。先ほど承ったご意見もご報告もさせていただきますし。そういうことで何とぞよろしくご理解いただきたいと思います。

石川善己委員

わかりました。まだ僕は市長が記者会見のときに言った「YKC43」でしたっけ、あっちのほうはまだはるかにいいなと思いますよ。そういった声があったということはしっかり伝えていただきたいし、私がいろんな方と話をしてその「よそみをすれば四日市」のことについて聞いたんですけど、何なのそれと言う方が圧倒的に多かったということも、ぜひその会議の席に上げていただきたいと思います。

終わります。

山本里香委員長

時間が大分経過をしましたが、この後、幾つかまだありますか。

ありますね。今の関連ですか。じゃ、関連でちょっと休憩に入りますんで、まず関連をお願いします。

小林博次委員

観光元年で市の思っている元年と我々が考えた元年はどうもずれが大きいかなと思っ
ているんよ。観光元年という思いのずれが大きいかなと思っっているんやけど、これ例えば観光でこれから飯食っていこうかなという感じの入り口やっと思ったら違うんやな。作業が空洞化していく中では飯を食っていく一つのツールになるはずやから、そういう取り組みをしてほしいなと。とりあえずちょっと思ったから、よそからこれそうなんかな、意外と

人気あるなというのがコンビナート夜景クルーズなんやね。それ以外は何も普通にやっていることで、元年と言わなくてもやっていることやな、花火大会とか。だから、観光資源らしきものがない中で観光を売り出そうとすると、その資源をきちっと紹介できるものからスタートしないとなかなか難しいと思うね。本当になんかということ、そういうことではなくて例えば1000年前につくられた水沢の茶ノ木原、これ1000前というとお茶は偉いさんしか飲んでなかったし、宗教もそういうこと。それから、その後親鸞上人だとか日蓮上人が出てきて宗教は大衆化していったわけな。一緒にお茶も大衆化していったわけや。こういう歴史的な発祥の地である京都に納めたお茶をつくっとる場所があるわけね。

東海自然歩道の中に組み込んだわけやけど、そういうことをきちっと単品でこういうものがあるということをきちっともう絶えず紹介しながら、その次の手だてとして観光コースに組み入れるという、これ観光ってコースやと思うよ。お茶、茶ノ木原歩かしてもかかったら2回目来やへんと思うな。行きか帰りかにおいしい松阪肉がどの辺かにあって、ここで松阪牛を食べて、ここでこう観光して、ついでに京都へ行って、また帰りはここへ来てコンビナート夜景クルーズでも見て帰るかなと、これがコースなんですよね。だから、単品の目玉が、今は知られてないから目玉にならんけど、何かやっぱり目玉を幾つか見つけておいて、それを歴史的な経過を絶えず発信して、やがてそれを観光と結びつける。こんなような発想も要るんと違うかなと思っているんやけど、ここでは観光元年の捉え方が我々と行政側でちょっとずれてないかなという気がするんで、そこの1点だけ質問。

清水商工農水部長

まさに小林委員が言われるとおりで、四日市市はそんな大きなレジャーランドがあるわけじゃないし、でかい名所旧跡があるわけじゃない。ただ、昔からの非常に大事な資源というのは点在しとると思います。それらを発掘しながら市民の力もかりて、何とか今言われたような四日市市へビジネスで来られた方が、例えば2時間コースで行くコースはないか、こういうコースをご紹介しますというようなコースも作りながら、四日市市の資源、文化を観光資源と結びつけていくというのが、本当に、今、小林委員が言われたとおりだと思います。それともう一つ、私、これちょっと語弊があるんですけど、四日市市はそういう状況の中でコバンザメ観光でもええやないかと。例えば伊勢市へ来た人、鈴鹿市へ来た人、長島温泉に来た人、その人らがちょっと四日市市で一遍飲んでいこうとか、四日市市でふらふらしようやないとか、そういうコバンザメ商法でもいいんじゃないかなとい

うふうに、私は個人的に思っております。

以上です。

小林博次委員

それでいいと思うよ。だから、コースとして組んでやれば乗ってくる可能性がある。江村町の久保三水、これは江戸中期から後期にかけて活躍した儒学者、漢学者なんやけど、これ国内では随分地位のある人でそういった有名な人が四日市市におったわけね。でも、初めて聞いた人もおるやろう。だから、そういう資源があるわけや。それをこんな資源があるということをとりにあえずはきちりとした輪郭を整えてアドバルーンを上げといて、それをどこかの観光のコースに組んでやる。こんなことをとりにあえずしながら飯食える種をつくり上げていくということが大事やと思うんで、ひとつ、総花的にみんながやらんでもどこか一つ取り上げて、毎年一つ取り上げてという格好でもええですからぜひ取り組んでほしいと、要望で終わります。

山本里香委員長

それでは、ここで15分まで休憩をしたいと思います。

14 : 00 休憩

14 : 15 再開

山本里香委員長

それでは、休憩を終わって再開をいたします。

先ほどのことに関連の質疑が出ておりますので。

伊藤 元委員

休憩前のちょっと観光推進事業について関連させていただきたいんですけども、四日市市のまちを観光のまちということでいろいろと、何ていうか、ネタになるものの掘り起こしをやっていただいとるんやと思うんやけれども、何かいま一つ上手に浮上してこないと思うんやけど、ここの委員会資料の16ページのところに書いてもらってあんのやけど、

他市町との連携体制を整備していくって書いてあんのやけど、これ、さっきもお話しされ
とった中でいろんな人たちと連携してコバンザメ商法もありやけれども、例えばちょっと
一つ聞きたいのは四日市市を中心にしてその周辺の鈴鹿市、菰野町、桑名市、そういうと
こら辺との連携というのは今どんな感じになっていますか。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

現時点でのこの北伊勢地域といいますか、そこでの連携についてお答えをいたします。
北伊勢広域観光推進協議会というのが、これ、北勢10市町、四日市市も含んで亀山市、鈴
鹿市以北と考えていただいていると思うんですが、というもので春には食と花のスタンプ
ラリーというものも行っております。これは楠のハマヒルガオもその一つでございます。
そして、それとあと鈴鹿市が中心になっているF1協議会というものがございます。鈴鹿
サーキットで行われるF1を中心とした世界から来るであろう方々を、これもほぼ同じ、
これは津市まで含んでおります、といったところで鈴鹿サーキットでそれそこにゆうど
うくんが行ったり、私どもも行って他市町と連携をして、その時々観光PRをしておる
というところが主なところでございます。

伊藤 元委員

北伊勢地区のほうでそういう連携を持ってやっておるとい話ですけども、そのそれ
ぞれのまちにそれぞれの特色があるのかなと思うんですよね。それをやっぱりどの部分を
隣町同士で利用していくかという、何ていうか、いろんなコースが組めると思うんですよ。
ここで観光戦略会議の委員さんは6名っていうんやけれども、旅行のプロである旅行会社
というのはそういう組織の中に入ってもらってはないんですかね。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

この6名の中に旅行業界の方も見えまして、旅行業界を代表してJTB四日市支店の支
店長、それから、JTBパブリッシング、これは『るるぶ』を発行しておるJTBの関連
企業ですが、こういったところの方が6名の中の2名でいてもらいます。

伊藤 元委員

すると、旅行のもう本当にスタンダードというか、全国誌も持っておるね、大きな事業

所さんが一部入っていただいておりますわけやで、しっかりといいものをつくれればアピールはできるわけですね。ですから、やっぱり四日市市としているんな資源がある中でやっぱり誰もが四日市市のまちをイメージしたときに、産業都市、コンビナートのイメージというのがやっぱり一番大きいと思うんですよ。そこで、ほかにもいろいろあるんやけれども、先ほど少し出たおったんやけれども、四日市市が唯一汚点とする公害ということもあるんやけど、これはやっぱり克服したことによって逆転の発想で、よそが経験してないことを我々はやって、それを乗り越えたわけですよ。だから、これはやっぱり観光戦略の中で一つの、何ていうか、武器として持っていてもどうなんかな、いいんじゃないのかなと私は思うんですよ。

あえてそこを置いていくんじゃなくて、突っ込んでいくということが大事かなと思ってね、それでちょっとこれはもう私の思いだけなんやけれども、例えばこの間の一般質問の中でもあったけれども、塩浜の町がどうなのかとかいう話やけど、やっぱり僕もその塩浜の町が一番適所ではないかなとは思っていますよ。あんまり行き過ぎた発言をするといろいろと問題も起きるけれども、これはもう私個人のもの、例えば三浜小学校さんが統合で問題になつてくるけれども、あそこの施設が統合して塩浜小学校になればあいてきますよね。あれを丸ごと公害資料館というイメージが悪いんやけど、未来環境技術調査館とか、何かそういう四日市市の近代歴史をそこで学んで、これからのいろんな産業技術もそこで学べる、そういう施設に持っていけやんのかなって考えるんです。この間、去年やったか、教育民生常任委員会で内部小学校のほうへ視察に行ったときに、小学校の理科の実験のときに企業の人たちが出向いてね、AとBの薬剤を混ぜて、それでプラスチックをつくるというような実験をしていました。そういうのを、今、四日市市では各地区の小学校に出向いて、そうやって企業の方々にお世話になって行っていただいとるんやけれども、これよその他市町の学校に行けばそんなことはないと思うんですよ。ですから、そういうことを出向いてしていただくのもいいのやけれども、ここへ来ればそういうことができるというところをつくっていくということはどうなんやろう。

それで、例えばこれ場所は例えですけども、三浜小学校跡地、そこにということで設定して、そこでそういう科学実験が実際にできる。それで、これが大人向けであったり、子供向けであったりという形でそういうことを学べる。それで、四日市市のコンビナートでつくられとるものがそこで見れる。それで、実際にすぐ横には工場があるわけですから企業さんの協力を得られればね、見物が行ける。そういった形で大きなものをつくって、

周辺市町にはないものですからこれは大きな観光資源になっていくと僕は思うんですよ。そこへ行く、例えば化学の勉強しに四日市市に行くんやと、それで、帰り遊びは鈴鹿サーキットとか、長島温泉で遊んでいこうやないかと。もう一步、1泊しようかと思えば例えば菰野町の湯の山温泉で泊まったらどうなんやと。四日市市で泊まっていたくことも大事やけれども、やっぱり菰野町の温泉というのはあれは名湯ですから、そういう部分、その周辺との協力の中で取り組んでいく。コンビナートの中では石油産業があって、車の原動力になる燃料ですよ、これを生かして鈴鹿サーキットでレースが行われておるわけですから、十分関連はしていくことかなと思うんです。そういうものをもっと具体的に見えるように実際組んでいってはどうかと思うんやけど、そんな思いというのはどうですかね、ないんですかね、四日市市には。

地区の市民の人たちがどう思うかわからんけれども、しっかりとそこら辺を、何ていうか、活性化のもとになるんだよというような形で描いて説明すれば変わってくるんやないかなと思うんやけど、それで、いろんな部局が横断して協力し合っってそういうものを仕上げるといことが大事と違うのかなと思うんですね。それで、商工農水部、教育委員会、環境部、この3部というのは積極的に連携して、そういうものを組み立てていくということができやんのかなってすごく思うんですけど、ちょっとこの辺でコメントください。もう言いたいこと言いましたけど。

山本里香委員長

観光戦略についてですが。

清水商工農水部長

今までご意見をたくさんいただきましたけれども、やっぱり四日市市の場合、環境と産業というのも、これも大きな観光資源だと思っております。現在、産業観光というのもことしから始めまして、いろんな企業さんにご協力いただきまして、中へ入らせていただいているいろいろ見せていただく、また、企業にとっても入っていただいて、CSRの関係で市民と近づくということで非常にウイン・ウインの関係で今進めております。同じく環境というのも環境教育というのも大きな意味で、私は観光資源だと思っております。そういうものも活用しながら四日市市の観光を考えてまいりたいと思いますけれども、公害資料館の件についてはちょっと私のほうからのコメントというのはなかなか難しいのかなと思っ

ていますので、控えさせていただきたいと思います。

伊藤 元委員

コメントは控えてもらってもいいんやけど、やっぱり四日市観光戦略として、やっぱりそうやって資源化できそうだという思いがあるのであればね、やっぱり部局横断でひとつ取り組んでもらって大きなものをつくっていくということが大事かなと。ただ単に、ちょっと公害に移っちゃいますけれども、その公害の歴史をとということだけではやっぱりもったいないと思うし、あかんと思うんですよ。やっぱり四日市市が歩んできた近代史になるわけですから、それで、未来にも続いていくこの産業ですので、しっかり環境分野というのはこれからまだまだビジネスにもつながりますから、そういう部分の取り組みというのは僕大事やと思うんやけど、それで、きょうのところはもうこの辺でちょっとあれですが、ひとつ頑張っ、一遍、周辺にないものを四日市市につくってね、アピールしてほしいな、よろしくをお願いします。

これについては一応これで終わります。

山本里香委員長

それでは、観光についてですが。観光関連ということで。

加納康樹委員

済みません、観光ばかり続いて申しわけないんですけど、さらに続いてなんでもう全部関連するのでいろいろな点でよろしくをお願いします。

まず敬意を表して部長の答弁に関連してなんですが、休憩前のコバンザメというところの心意気はいいと思いますが、現実には厳しいなというところだけ発言をさせていただきます。何でかという、私もこの立場にいさせてもらっていろいろと経験をしているんですが、四日市市でもいろんな方が行政視察に訪れていただいています。最近は特に議会のほうの視察で訪れていただけたところが非常に多いんですが、ここのところ四日市市を訪れていただける視察のコースのゴールデンコースは、四日市市に来て、そして、鳥羽市に泊まる。このパターンがめちゃくちゃ多いもんですから、コバンザメどころかスポイルされているという、こういう現実がありますので、この点に関しては議会も頑張らなければいけないと思うので、部長の心意気をこちらとしても生かせるように、議会のほうも頑張っ

ていきたいなというふうに思っております。先日、鳥羽市議会の議長にお会いすることがあったんですが、鳥羽市議会の議長が声を高らかに言っていました。うちの議会に視察に来るからには絶対泊まってくれって言っとるんやわと言っていましたんで、それでとられてるんかと思いつつ、四日市市も実は議会事務局にその辺をお願いしているんですが、できたら泊まってくださいとしか言ってないんで、でも、鳥羽市にもな、難しいしなとか思っているんですが、そんなこともあるんだということだけ、まずは別に部長の発言に対して関連してつぶやいたというところからスタートします。

次なんです、伊藤委員のところに関連をして、もう大分タイムラグな関連ですが花火大会のところでも少しお話をしたいと思います。5号玉云々の話はたしかちょうどこの決算のときの1年前からか、花火大会再開以降、7号玉か8号玉を上げているのを保安距離がどうしたこうしたで5号に変えたということで記憶をしています。それでどうなのかというと、現地で見ている分には玉数がちっちゃくなるんだけど、その分爆発点も低くなるから、現地で見ると迫力は変わらないよという説明を聞いた記憶があるので、確かに現地で見ると分には余り変わらないし、迫力はあるし、樋口委員もおっしゃっていましたが、風向きによってはことしも結構来ましたが、いろんなものも降ってくるぐらいの臨場感があるので、あれも風向き反対だったらきれいに見えるしすごくいいんですけど、風向き次第なのかなという思いがしていて、その点はやむを得ないと思っておりますので頑張ってほしいというところと、これ、ちょっと前の雑談でお話をしたんですけども、あえて公式の場で改めてお話をさせていただきますし、何年か前も言ったんですが、何と云って音楽との融合とうたうのに実はあの場内にいて音楽が聞こえにくいところがたくさんあるというところ、これはぜひ是正をしていただきたいなと。

平成24年度、この間の花火大会も、私、有料観覧席に毎年お邪魔をさせていただいておるんですが、さらにちょっとだけ講釈垂れると、花火大会を再開するときに有料観覧席を売り出せということを言い出した1人としては絶対買わなきゃいけないと思っているんで、再開以降、毎年買ってお邪魔をしていますが、それなのに、有料観覧席なのに音声聞こえにくいところがあるというのは非常に問題かなと。ことしは特にひどかったんですが、去年も別に褒められたものじゃなかったんで、この点に関してはこれもう何年か前にも発言させてもらったんですが、ぜひ、皆さんの中で伊勢神宮奉納全国花火大会行かれた方がいるのかなんですけど、伊勢神宮奉納全国花火大会は観客席も広いし、有料席もどえらい広いんですけども、どこにいても音声はすごく明瞭に聞こえる。あそこは本当に

音声とまさにきれいにマッチングしてどの花火も上がってくるというすごい花火大会なんで、何もそれは伊勢と同等のことをしろとは言わないんですが、せめて音楽との融合とうたうからには、ぜひその辺のところをご配慮いただいて場内にきちっと音楽が、アナウンスが聞こえるようなところの是正は、改めてなんですけれどもお願いをしたいと思っていますが、いかがでしょうか。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

貴重なご意見というか、まずはご迷惑をおかけしました。貴重なご意見ありがとうございます。毎年改善点はいろんな方からお教えいただいて改善しているところですが、少なくとも来年はこの放送、それから、有料観覧席についてはことし気づいたことを申し上げますと、トイレも並んでみえるということで、先ほど来、委員の皆様方が観光というんだとお客様のニーズ、おもてなしということも言ってみえることも非常に心に残っておりますので、そういったところのサービスを上げるという形で改善をしてみたいと思います。

加納康樹委員

本当、花火大会の有料観覧席もどうなんですかね、芝生席のことを思えばまだまだお客さんに入っただけの余地がいっぱいあると思うので、来年以降も私も協力いたしますので、ぜひまた頑張ってくださいと思います。

次、樋口委員に関連する形で全国工場夜景サミットに関連をしてなんですけど、まずこれは何ととっても第1回が川崎市で開かれたのを受ける形で、第2回の招聘をすぐしていただいたということには心から敬意を表したいというふうに思っております。それで四日市市で行われたやつなんですけど、サミットとしても非常によかったと思います。何がよかったって須田さんの話がすばらしかったんで、あれはもう本当にいいサミットになったなというふうに思っておりますので、また次順番が来ることがあればぜひ頑張ってくださいと思いますが、樋口委員とも多少関連するんですけど、たしかこれ当初予算で100万円が200万円になったんでしたっけ、どういうことなんでしたっけ、まず確認を。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

おっしゃるとおりでございます。当初予算は100万円で、他費目から準備の段階で流用

を100万円いたしまして200万円ということでございます。

加納康樹委員

結果としていいものができたんで別に倍額になっても全然構わないとは思っておりますが、ただ、今後も続く話だと思うので、この負担金の割合的なものがどうなっているのかを教えてくださいませんか。やっぱり開催地がいっぱい持ってほかの参加のところが少ないのか、それとも今後は均等割りになっていくのかとか、そのサミット開催を継続していくに当たっての負担金のこれからが、どういうふうになっているのかというのかわかりますでしょうか。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

第1回川崎市、第2回の四日市市ともに主催、開催地が多くの負担をし、共催、四日市市で言いますと「共」に「催し」の共催ですね、こちらの室蘭市、川崎市、北九州市については10万円ずつという形になりました。この川崎市の第1回のサミットもそうでございます。とりあえずの4都市で四日市市のサミット後に今後ということも話をしております。まだ結論は出ておりませんが、推測というか、この4都市が全て開催になるまではこの方法で行くのかなというところで進んでおります。

加納康樹委員

そうですね、これから決めていただければいいと思うんですが、今のところ4都市ですが、これがどんどん広がっていけばもっともっといろんな都市の方も手を挙げて輪に入ってもらえるかもしれないので、ここの委員会でいくと前に市民文化部のところでいくと、多文化共生の関係で全国集住都市会議、それもこれと同じような分担金、負担金制度でやっているんですが、あそこでいくと各都市均等でお金を拠出し合って、だけど、いろんなところで開催するというシステムが既にでき上がっているというのもあるので、ぜひこの点はどこかのタイミングで、工場夜景サミットというのが定期的にかかれるものであればあるほど、ちゃんとしたルールも決めていただきたいなと思っておりますので、何かの機会があればご考慮もいただきたいというふうに思っております。

工場夜景サミットに関連をする形で、石川委員の部分に関連する形で観光集客数のデータが主要施策実績報告書のところに出ています。これコンビナート夜景クルーズのカウン

トは四日市港に入っているんですけど。それともカウント外なんですって。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

コンビナート夜景クルーズにつきましてはここには入ってございません。四日市港その他には入ってございません。

加納康樹委員

その主催がどうのこうのとかいうと、市が金を出している出していないとか、その辺のところではカウントに入る入らないがあると思うんですが、ぜひこれ何とかこのコンビナート夜景クルーズのカウントも、言っちゃ何ですけど、宮妻峡キャンプ場の二桁のやつもここにわざわざカウントに入れているぐらいなんで、そのことを思えばこのコンビナート夜景クルーズのカウントも入れてほしいなというふうに思います。何でかという、またこれ四日市公害と環境未来館につながっちゃう話なんです、あれの算出根拠を出すのはこのデータから何%でというふうな算出根拠で、来館客数見込みをはじき出しているぐらいの、そういうベースにもなっているんで、となると、この数字に、多分、コンビナート夜景クルーズに来た人というのは、公害資料館に行く可能性は非常に高いんじゃないのか。あれこれ見て、へーというふうな関連性も非常に高いと思うので、そういう点でいくとぜひそんなご配慮も、ちょっとカウントの基準から外れるのかもしれないけれどもご考慮いただけるといいなと思うんですが、いかがなものでしょうか。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

この観光集客数につきましては県を通じて国に報告をしているという状況でございます、この項目の増加あるいは入れかえ等については早速確認をいたしまして検討したいと思っております。

加納康樹委員

ぜひよろしくお願いをしたいと思います。

続いて、魅力発信支援事業ということで、去年ってB 1グランプリに初出場で姫路市に行かれたということで、こちらの委員会の資料の中では職員5名を派遣という形で行かせていただいたということを書いていただいているので、これ大変ありがたい話だな

と思っています。まず、済みません、私、姫路市はちょっといろいろ都合がつかなくてよう行かなかったの、今お座りになっている方で姫路大会行かれた方がいらっしゃいましたら、その場でいかに四日市市をアピールできたかということ、実体験をもとにご報告いただければと思うんですが。

山本里香委員長

姫路市へ行かれた方おりますか、どなたが。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

5名のうちのほとんどここにおると思いますが、まず概略です。四日市のまちをPRしようという四日市とんてき協会の方々に合流をさせていただきまして、お客様のご案内、それから、ちょっとまとめに申し上げますが、並んでいただいている方々への四日市のPR、それと退屈させない踊りをまじえたサービスというか、といったものを、おいしさをより際立たせるといいますか、元気よくおもてなしするという形でこちらから行ったメンバーと、それとほかの方ももちろん見えますが、非常にそれによってお客様を退屈させずに、おいしさをそのまま伝えられるものが提供できたなというふうに感じております。

清水商工農水部長

私も行きました。基本的には並ぶ前に立ちまして、四日市市です、四日市とんてきはどいうですかという呼び込みをもう声がかかるぐらいしたんですけども、驚いたのは、四日市とんてきはここですかというふうにいらっしゃる方がたくさん見えまして、ああ、四日市とんてきというのはそこまでもう名が売れたのかなというのはちょっと本当に私も再認識いたしました。物すごく並びまして、売れ行きはもうとんてきがトップやったと思います。ただ入賞はできなかったという残念な結果になりましたけれども、森委員も一生懸命並んでいただいたお客さんにわざわざ提供していただいてPRしていただきましたし、行った者みんな協力して四日市市を売り込んだという、割とみんなで一体になれたのかなというふうに思っております。

加納康樹委員

ということで、このB 1グランプリというのはもう、今、相当な集客数を誇るイベン

トに成長しています。ことしが北九州市で来年が豊川市というところまで決まっているかと思うんですが、当然やっぱりエントリーできたからいいというところからそろそろ脱却して、四日市市にB 1グランプリを持ってこようという発想もそろそろ必要かなと思います。豊川市が来年招致を決定していますが、それに当たっては豊川市はまず東海大会を豊川市でされましたね。豊川市は私は行かせてもらいましたけれども、そういうふうな形でちょっと布石を打つためにも、いきなりB 1グランプリ本選というのがきつければちょっと東海大会ぐらいを何とかやろうやということで声をかけて立ち上げるとか、そんなことでB 1グランプリ本選の招致へつながるということにもなってこようかなというふうに個人的には思っておりますし、もしB 1グランプリをやるんだったら70m道路は全部とめなきゃいけないと。それぐらいの価値はあるし、それぐらいのお客さんが絶対来るのでそんな話にもつながってこようかと思いますが、このB 1グランプリに参加することに意義があるだけではない、その次の一手に関してはいかがお考えでしょうか。

山本里香委員長

よろしいですか。

清水商工農水部長

姫路市へ行きましてもうB 1グルメのその規模の大きさというのにはもう圧倒されて、それに行くまではいつか四日市市で開催したいなと思って行ったんですけど、これはあかんわというのが私の実感でして、そのときもいろいろ三重県知事からも四日市市でやれよと言われたんですが、ちょっと二の足を踏むなと思いました。東海大会は私行っていないんですけど、東海大会がどのくらいの規模なのかわかりませんが、やっぱり会場の広さと、二、三百人が並ぶんですよ。料理するのはテント一つか二つなんですけど、その前に300人も並べるようなスペースが、それが60店舗ぐらいある。だから、姫路市なんか姫路城の周りに3会場押さえてやっとなんですよ。それと配水が要る、全部というのを考えると四日市市で果たしてできるのかなというふうなちょっと心配はあります。ただ、東海大会は30店舗ぐらい、それが可能かどうか。私も含めて観光やっとなものは割と行け行けなんですけれども、できたらやりたいなという気は持っておるんですけど、ちょっと今二の足を踏んでもうちょっと実態を勉強して、どのくらいの規模でどのくらいの負担がかかってどのくらいの広さが要るんかというのも、ちょっと勉強して伺っていきたい

と思っています。

加納康樹委員

確かにやろうと思ったら言ったように70m道路も全部とめ、そして、中央緑地会場もやりぐらいの話には当然なってくると思うんですが、ぜひ観光、観光とうたうのであればそれぐらいの心意気、そして、準備ぐらいはやってほしいなと思っておりますのでぜひよろしくお願いをします。

最後にもう一点だけ細かいところなんですが、同じく観光で観光コンベンション協議会負担金で50万円の決算で上がっていますが、これは逆に150万円が50万円になっているような気がするんですが、その辺の要因に関してはどうなんでしょう。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

商工会議所と観光協会、それから、市の共同体、観光コンベンション協議会の立ち上げを平成23年度にもくろんで150万円の予算でつけていただきました。平成23年度中には実は準備会の立ち上げには至りましたが、まだ本協議会に移行することができませんでした。その100万円につきましては先ほどご指摘のありました工場夜景サミットのほうに見合いながら流用をさせていただいたということでございます。

加納康樹委員

観光というところでは予算が活かされたと思えばいいんですが、当然、そのコンベンションというこちらの概念のほうも大事だと思いますので、引き続きこちらも頑張っていたきたいというふうに思っております。

以上です。

山本里香委員長

ほかに。

樋口龍馬委員

よろしくお願ひします。

商工農水部の常任委員会資料の2ページ、買い物拠点再生事業、例年指摘をさせていた

だくところなんです、秋の四日市祭は中段のところにあります秋の文化行列、これが秋の四日市祭のことです。120万円です。大四日市まつりはおよそ2000万円です。一つの祭りのために支援はできないというお立場はわかるんですけども、旧四日市のシンボリックなお祭りですし、こにゅうどうくんなんていうキャラクターも活用している以上、秋の四日市祭をこれではちょっといかなのではないかなという思いがあるんですが、やっぱりここのお金はふやせないんでしょうか。

山本里香委員長

そうですね。

加藤商工農水部参事兼商業勤労課長

総事業費が約300万円に対しての120万円という補助でございますけれども、基本的には今の内容でいきますとそれぞれの山車を出展される方への謝金的な内容がほとんどになっておりますので、これが全体の行事としてある程度充実、拡大してくという部分があれば、それについての対応は可能かなというふうには思っております。ただ、それがちょうど120万円を240万円にしてどういう展開が見れるかって、逆算で考えていきますと難しいと思いますので、行事の内容についての再考も必要かなというふうに思っておりますし、今回いろいろ議会の、毎年そうですけど、東海道ウォークとかいろいろあわせていただいておりますので、そういった兼ね合いもうまく、十分またこれまでの経験も生かしながら進めていくということも考えていきたいと思っております。

樋口龍馬委員

そもそも買い物拠点再生事業という位置づけで秋の四日市祭を片づけてしまうことにも問題があるんじゃないかなというふうに思いますし、同じく常任委員会資料の13ページを見てもらいますと、これ多分明神丸だと思っておりますが、大四日市まつりの顔として明神丸を出したり、市のキャラクターとして大入道をコミカルにしたこにゅうどうくんを使っている以上、四日市はもっと秋の四日市祭を大事にするべきだと私は日ごろから思っております。使っておるんですね、観光の柱に岡田さんされていますよね、こにゅうどうくんも鯨船も。であるなら、そこはちょっと特別視してあげないと、この前は市民文化部の予算で大入道の首を直していますけれども、明神丸だって修繕をかけてかないかんですし、そ

うですね、甕割りだって岩戸山だって菅公さんだってもう手直しが必要な時期なっていて、それをあくまで市民文化部の予算でいくのかというのは僕は非常に問題を感じています。この山車に関しては特別な修繕予算をつくるとか、そういったことも考えていかないかなのではないかなと思うんですが、ご所見をいただきたい。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

大四日市まつりの実行委員会予算の中に、この山車の修繕費用みたいなところを別枠で基金のような取り扱いをして修繕費の2分の1、上限は20万円ということで取り扱いというか、そういう形で準備をしており、ご相談に応じて支出申し上げるというような状態でございまして、いろいろ考え方はあると思います。市民文化部ではないのではないかと、いや、市民文化財なのではないかと、市民文化部の予算ではないかというようなことの議論はこちらのほうもまた庁内で詰めなければならないとは思いますが、私どもとしては、今、現状の形で進めさせていただきたいとは思っております。

樋口龍馬委員

大四日市まつりというのは僕はイベントだと思っているんですね。秋の四日市祭というのは祭りなんですわ。祭りというのはその町に住む氏子衆がやっていくわけですけども、それを四日市市としては旧四日市の文化財たちを使って今PRをしている。例えば20万円で大入道の首が直るかってもうとんでもない。あれももうしん柱が折れてしまったらかわりのしん柱がないんじゃないかって言われているような状態ですし、本町さんの尽力によって直ってきた山車なんかもあります。まだまだ北條の魚の行列だとか復活してないものも多々ある中で、本気で盛り上げていこう、軸にしていこうと思うと僕は夏よりむしろ秋だとは今でも思っていますんで、山車の修繕に関する予算は、この先はちょっと委員長に。

山本里香委員長

私が発言させていただくんですか。

山車の修復、文化財なのか、観光資源なのかということは大変言われている内容は難しい問題で、市役所のところでもどこが扱うかということは大変難しい問題だと思いますが、四日市市にとって重要な観光資源で、文化財であるとともに観光資源であるということは

自他ともに認めてみえることだと思imasるので、そこら辺のところできちんとした手だてができるような方法を、きちんと庁内の中で詰めていただきたいと。とにかく秋の祭りというのはそれこそ地元に基づいている本来のもので、夏は後からやってきたということと言われたいんだと思imasります。だから、逆に言うと夏は商業観光的に今まで扱ってみえて、秋は市民文化部と、あるいは、文化財というふうに分けていたんだと思imasるんですけど、そこら辺のところもこれからどうしていくかということも含めて大変重要な四日市の、ここで言うと観光資源だとも思imasるので、手だてをきちんとできるような方策を考えていただきたいということですか。

樋口龍馬委員

はい。

山本里香委員長

ということだそうです。それでは、祭りに関してよろしいですか。

では、次、ほかに。

伊藤 元委員

常任委員会資料の11ページ、新規産業創出事業費についてですけれども、ちょっと聞き漏らしたんかわからんのやけれども、3社に対して補助をされとるんですが、これ研究開発を行った、共同研究により行った、研究開発を行ったという結果報告ですが、その後、これ物は完成して市販されるようになってきておるのか、もしくは、ちゃんと、それ、後どうなっとるかちょっとご報告をいただけるとありがたいんですけれども。

佐藤工業振興課長

11ページの新規産業創出事業の関連でございますけど、昨年度、平成23年度の分3件ほど載っております。上から行きますとまずミナミ産業さんでございますけれども、こちらのほうはいわゆる豆腐をつくるための大豆をうまく砕く機械というのでいろいろと技術を持ってきた企業でございます。その後、機械をほかの用途にも転用できないかなというところで技術開発を進めておりまして、こちらのほうはまだ製品で商品として売るところまでは至っておりません。社内でいろいろ試しておるという状況です。

それから、2番目のNSテックさんの重量鉄骨ラーメン構造によるシェルター、こちらのほうは既にもう商品を販売しております。これを受けまして、今、市の都市整備部のほうと危機管理室のほうでいわゆる耐震の補助制度がございます。その補助制度の対象にできないかということで、平成24年度、今年度に入りまして危機管理室と三重県のほうも含めまして協議をさせていただきまして、一応その補助対象となる施設として認定をいただきました。

次の内山製陶所さんのマイクロ波の加熱調理器の開発ということで、これ萬古焼の陶器なんですけれども、いわゆる電子レンジで煮込み料理ができるということのうたい文句で、こちらのほうも商品化されております。

以上でございます。

伊藤 元委員

ありがとうございます。

この3社に対して補助していったわけやけれども、この真ん中の株式会社NSテックさんというのは何屋さんになるんですか。分野としては、建築屋さんなのか、鉄工所なのか。

佐藤工業振興課長

一応これについては製造業のほうにはなるんですけれども、こちらのほう、NSテックさんともう一社の2社の産々連携の中で取り組んでおる事業でございます。産々の2社で協力して取り組んでいる事業でございます。

伊藤 元委員

だから、何屋さんなん、これ、主は何をされとるか。

釜瀬工業振興課主幹

工業振興課の釜瀬です。

こちらNSテックさんというのは主に市内の立地企業さん、大きな工場とかで機械などの設備を製作されたり設置されたりというのを行われている新正に本店というか、本社がある企業さんです。

伊藤 元委員

この補助事業なんやけど、写真つけてもらってあるわね。見ればわかるんやけど、これってこんな補助金使うてせなあかんようなものやろうか。こういう構造で上から4 tの錘を落としたらどうなるかっていう実験やね、これは。だけど、これって、どれだけの鉄鋼をラーメン構造で組んだら耐久性はどれくらいあるかって、建築で確認すればすぐ出るんと違うの、こんなの。

佐藤工業振興課長

済みません、写真のほうがこの耐久試験といいますか、その写真を載せてございますけれども、この鉄骨構造というのはおうちの一つの部屋の中にこの鉄骨を組み込むということでございます。

よろしいですか。

伊藤 元委員

うん、いいよ。

佐藤工業振興課長

その中で、鉄骨を運ぶのにどうしてもこれ家の中に重機を放り込んでいくわけにいきませんので、どこまで細い鉄骨にしていって、その人力である程度運び込んで組み込みができるかというところを、三重大学の教授のほうの協力も得まして試しにつくりました。それが最終的にこれどこまで耐えられるかなという試験をやっているものでございます。

伊藤 元委員

重量鉄骨の写真やけれども、どこまで細くしてってどれくらいかというんやけど、軽量鉄鋼でハウスメーカーの家がもう実際に出とるよな、ある程度耐震性とか、鉄骨であったら。僕思うんですよ、そうやって。それで例えば鉄骨構造で建物を設計していく中で、このワンスパン、ワンスパンがあって、それで、どれだけまでの柱で肉厚の鉄骨を使えばどれだけまで柱なしで、真ん中の中柱なしでいけるとかね、もうそんな建築の基本やんか。テストする以前の問題やと思うんやけど、それで大学が入ってそこまでせなんのかなって、すごい僕これ疑問なん。ちょっともっと詳しい資料欲しいな、これの、できていれば。

佐藤工業振興課長

資料のほうは詳しいのがございますので、ただ結構分厚くなりますけど、よろしいでしょうか、二、三十ページになります。

伊藤 元委員

二、三十ページ、あるんやったら一遍ちょっと、コピーしてもらわんでもええで、それ一遍また見せてください。

佐藤工業振興課長

はい。

伊藤 元委員

やっぱり、これちょっと写真を見てしまうであかんのかしらんやけれども、中身をもう少しきっちりと教えてもらわんとあかんかなと思うんやけど、この写真から見るところによるとこんなの建築士の人が見たら何しとんのって思わへんかなと思うんですよ。それで、既存の例えば木造住宅の中の一室の中に鉄骨を組み込んで、木造住宅が倒壊してもちゃんとそのスペースが保たれるということやわね。そのことなんやけど、そのもとの鉄骨住宅の基本設計の中で使う柱の太さなんかを考えればすぐにそんなもの出ると思うのやけどな。逆にお金を100万円かけてそのぶ厚い資料をつくってたんかなとか思ったりもするんやけど、ちょっとけちつけるようで悪いんやけども、何かこれってどうなん、本当にしっかりした建築の人が見たときに笑われやんのやろかと思って質問するんやけど、建築確認するところでありますやんか、一遍確かめてみて、どうやろう。

佐藤工業振興課長

こちらのほうの事業を採択するに当たりまして、一応、新規産業創出研究会といういわゆる委員会みたいなものを、外部の大学の先生なんかも入ってもらっていますところを経由して、出すに値するかしないかというところは一応経た上で採択ということはやらせてもらっておりますし、あと、この実験をやったりとか、中身に当たっても危機管理室のほうにも建築の職員がおりますので、そうしたところともいろいろ協議をしながら、こう

いのでいけるかなという話はさせてきていただいております。

伊藤 元委員

もうこれ以上はやめますけれども、建築確認のその方々にも見てもらったというんやけれども、実際にそういう実験って余りしたことないんやわな。それで、そういうことをするよって言われればそれは誰も見にいきたいなって関係者は思いますよ。それで最初の予算のところである程度きちっと精査してね、応募に充ててったわけなんやろうけれども、ちょっとこれはどうなんかって私は違和感ありますね。地震対策ということではいろいろと危機管理面で言われとる一つの手法としての技術というのはわかるんやけど、実際に一級建築士の人で重量鉄骨、軽量鉄骨に携わっている人らが見たら、こんなのするまでもないやんかって、もう柱の厚さ、それから、太さでもうその強度は出てとるんやで、どれだけの鋼材持って行って6畳の間やったら、8畳の間やったら、10畳の間やったらこのときは絶対安心ですよ、何が落ちてきてもってあると思う。何かほかに細かな、何ていうの、特殊な構造があるんなら別やけれども、そやけど、普通のこれ書いてあるとラーメン構造やでもう普通の重量鉄骨組みの施工やと私は思うんですよ、四角い間をつくっただけの。それでそこへいろんなものが落下してきたり崩れてきても大丈夫ですよという、ただ単にその実験をやったにすぎやんのかなっていうふうに感じるの、ちょっとこの辺また後で詳しい資料を教えてください。よろしくお願いします。

それともう一つだけ、済みません、もう続けて。

ちょっと重箱の隅をつつくような話になるのかなと思うんやけれども、14ページ、その続きの工業振興補助金一覧の中で中ほど、商工会議所中小企業等振興事業費補助金、四日市商工会議所さんに対して360万円、その下が楠町商工会に対して460万円、この内訳というか、その辺ちょっと教えてほしいんですが。

山本里香委員長

出ますか。

伊藤 元委員

細かかったら何か資料としてもらえるとありがたいけど。

山本里香委員長

紙の資料で後で、今でも要りますか。

佐藤工業振興課長

まず四日市商工会議所のほうですけれども、こちらのほうの内容的には三重の景況調査とか、あと、それとか新入社員セミナーのフォローアップセミナーとか、それから、あとはこれはちょっと技術的なあれですけど、大阪大学のナノテク社会人教育プログラムのこれもセミナーの開催ですね。それとか、あとリーディング産業展への出展の関係、そのほか中小企業を対象とした各種セミナー、この辺などが含まれてございます。

伊藤 元委員

はい、それでもう一方。

佐藤工業振興課長

あと楠町のほうも、こちらのほうは楠町商工会に対する補助金でございますけれども、こちらのほうがまず経営指導普及事業といった内容のものが一つ、それから、地域総合振興事業費といった楠町商工会のほうで取り組んでいる事業というのが、これ、ほかの商工会でも一緒だと思うんですけれども、こういった二つが主なものになっておりまして、そちらに対するアドバイザーというか、専門スタッフさんの人件費なんかも入ってございます。

伊藤 元委員

そうすると、同じ名目でありながら大分ちょっと色合いが違うのかなというふうに感じるんですけれども、それで大きなまちと楠町とで100万円違うんやけど、小さいほうが、これはこんで妥当なんかな。

佐藤工業振興課長

こちらのほうは確かにちょっとバランスからいって見た目逆じゃないのかなというようなご印象いただくのは、当然かなと私どもも思っておりまして、いろいろと商工会に対する事業と商工会議所、これ、私も一緒のものかなと思っておりました。ところが、法律的

に全然成り立ちが違うものであって、商工会のほうは県のほうも1000万円ぐらいの補助金が出ております。それと、地元の市町からの補助金、ほとんどがこちらのほうで運営をやっておるといふ実態がございまして、ただ、四日市市商工会議所と楠町商工会を比べた場合に、事業内容とかそういったものからしてやはりちょっとバランス的にはまずいかなというふうに私も思っております。これにつきましては、今、楠町商工会のほうと昨年からももう少し整理できないかということで協議を進めておるところです。少しずつではございますけれども、補助金を20万円なりとか40万円なりとか、ここ数年で減額しながら楠町商工会さんのほうにもご努力をいただいているという状況でございます。

伊藤 元委員

内容はわかりましたけれども、それで少しずつ減額してっという話やけど、大事な人は楠町の商工業を営んでる人たちがね、しっかりと自分の仕事を発揮できとるかどうかが、それにつながっているかどうか大事やと思うんですよ。こんなこと言うといろいろ言われるかもわからんやけど、何ていうかな、生き延びるための何か守りだけという、何ていうか、上辺だけのよう、何ていうの、補助みたいになったらへんのかな。実際にしっかりとした経営の軸になっていくようなことに当てとんのかなと思うと僕ちょっと違うかなと思うんですよ。

それで、例えばこの間ってきのうやったかな、楠総合支所のお話があったんやけど、楠総合支所という名前、中村副委員長がいつまで残すんやという発言があったやんけど、名前なんてどうでもええと思うんやわ。楠地区市民センターでも僕はええと思っとんの。だけど、中身の住民がしっかりとこの24地区の中で、四日市市民としてみんな一体になれて、しっかりと自主自立のまちづくりに取り組めるような状況に早くなっていくほうが僕はええと思っとんの。ところが、ちょっと商工会さんの場合はまだ確かに商工会法というのがあるって、それぞれの成り立ちが違う形であっておれるんやけど、やっぱりこうやって行政区が一つになった中で、その違いがあるということに僕はちょっと違和感を持っておるんですよ。それで、補助金が必要な分に関しては出したってほしいんやけれども、何かずるずるとやっということでは僕はあかんと思うので、やっぱりその辺のめり張りをつけてちゃんと指導をしていただいてね、指導や助言をしていただいてね、もっと中身の強い形になっていくような手法を早いとこ築いてもらうというか、見つけてもらうような形に持って行ってほしいなって思うんです。

ですので、とすると今年度はまた下がっており、来年度ももう少し下がっていくというふうなことなのかなって認識するんやけど、それはそれでいいんやけどね、お金は、そやけど、お金だけがずるずる下がっていったなかなか中身の意識改革できないという部分があるもんで、それで実際にいつも毎年やとった、去年雨で中止になったけれども、健康ふれあいフェスタのほうなんかでも商工会さんが結構主導的にやとんたんやけど、もうことしなんかどうしてええのかわからんで困とったんやわな。それで自治会さんが主導的になってまちおこしフェスタというのをやるということになって、そこへもうぼーんと乗っかってきたような形になとんのやわ。それで、実際もうどうしてええのかわからんのと違うのかなと思とんの。そんな中でそういう人たちが寄って、一生懸命商売のことをいろいろ考えるんやけれども、何か残念な話やなって僕は思とるんですよ。もっともっと中身をしっかりと考えていくべきと違うのかなと思って、もうやっぱりその辺の知恵が少し足らんような気がしとる。そやで、お金ばかり少しずつ減らしていくんじゃなくて、もっとその辺の内容が濃いものを指導したってほしい。ぜひよろしくお願ひしたいと思う。別にこの金額に対してどうのこうの言うつもりはありませんけれども、その辺をひとつ力強く頼んでいきたいなと思ひますのでよろしくお願ひします。

清水商工農水部長

法の違いとか、やっぱり楠町と四日市市の違いというのがあったと思ひますけど、私も毎年楠町の商工会の総会に出させていただいて冒頭挨拶させていただくんですが、ことしは加納副議長も来ていらっしゃいまして、私言いにくかったんですけど、その辺ちょっと触れさせていただいて、こういう逆転現象もあるし、ちょっと事業費補助、四日市市というのは事業補助で行くんだから徐々に見直していきたいというのを、ちょっと言いにくかったんですけど、その場で私も言わせていただいたところですので、強い意識持っていますので相手さんとすり合わせながら見直していきたいと思ひております。

山本里香委員長

伊藤委員にお伺ひしますが、先ほどの資料は文書では要らないですか、二つの補助金の内容の。

伊藤 元委員

内容欲しいです。後でいいですからちょっと書面で細かく記載してください。別に判断には及びません。

山本里香委員長

では、お願いします。

ほかに。

樋口龍馬委員

青のページ、工業振興課のほうの9ページですね。理系大学生企業訪問事業で4名の方をとお書いてあるんですが、部長が昨年ご答弁いただいた内容だと、今回は関西の方面に探してにいていただいたということなのではないでしょうか。そのあたり成果も含めて、このバスツアーの4名に関して今後どうやってしていくのかということと、部長のほうからひとつ意気込みも含めてお伝えいただければなと思います。

佐藤工業振興課長

昨年の理系大学生企業訪問のほうですけれども、4名ということで確かにこれは私どもとしてはちょっとうまくやれなかったなというので反省をしております。当時は東京のほうの大学からということで始めた事業とは聞いておりますけれども、なかなか、今、東京からというのは難しくなっております、関西のほうの大学なんかへも多くの案内を送ったりして人集めにかかりましたが、実際に来ていただいたのは近辺の名古屋工業大学とか、名城大学、三重大学、こういったところばかりでございました。これについては今年度、平成24年度でやり方をちょっと見直さなくちゃいけないのかなというふうなことで、今年度は、8月に去年は行いましたけれども、まだ実施しておりません。夏休みというのが学生さんにとって結構暇なのかなと私どもも思っていたんですけれども、いろいろ前回参加いただいた方なんかにもお聞きしますと、結構夏休みに関しても学生は学生でいろんな予定立てているもんでなかなか参加が難しいとか、2泊3日ということで3日連チャンであけようと思うとなかなかやっぱり日程がとれないとか、そういった意見も聞きました。ことしはちょっと時期を変えて、いつぐらいが一番いいのかなというので、今のところ11月の終わりのほうにできないかなということで進めさせていただいております。

あと、日程のほうも2泊3日ということではなしに、一日一日で分けて企業を2社なら

2社ずつ訪問する。そういったやり方をするとともに、昨年の決算常任委員会の中でご意見をいただきましたように、もう少し就活というか、そういった面での工夫もできないのかという意見をいただいております。それについても現在例えば1日の見学の中のどこかの1時間ぐらい時間とって、就職活動のガイダンスみたいな、そういったこともできないかといったようなことも今検討中でございます。

以上でございます。

樋口龍馬委員

昨年の中川副委員長さんも言ってみるところでございますが、企業展みたいなことをして就職支援の会を四日市ドームでやってみたらどうだなんていう意見が去年にあったのかなと。その中で関西のほうの学生がこっちに戻ってくる機会が多いという情報を得ているという部長の発言もあって、関西のほうに行くんだとって、4名というところで余りうまくはいかなかったから今度は時期をとということなんですが、もう本当に次あかんだら完全に見直さないかと思うんですね。これも田中市長の肝いりで始めた東京の理科系大学の生徒を連れてきてというところからスタートしてますんで、もう4年目に入ってくる中でことしきちんとできないともう見直していただかんと、毎回、毎回目減りしてっている部分ですし、もう意見で結構です。

山本里香委員長

意見ですね。

ほかに、要望、観光のことですか。それでは、認めます。

荒木美幸委員

済みません、端的にお話しします。ずっと今観光の話で四日市市の観光を盛り上げていこうという皆さんからの意見があったんですが、コンビナート夜景クルーズのことで一つお願いしたいなと思うことがあります。というのは、昨年私も体験をさせていただいて、とてもすてきな夜景だなと思って感動させていただいたんですね。予算的なことはこれ港との兼ね合いもあるかと思うんですが、あのとき感じましたことは、わくわくしないんですね、待合室に。とっても殺風景なんですね。デートコースという売りもしていると思うんですが、デートコースにしては待合室にいるときにわくわく感が全然ない、ハードで残

念なんですね。古いのは仕方がないと思うんですが、古いのと工夫がないのは違いますので、工夫が全然感じられない気がしたんです。例えばショーケースが並べてあるだけとか、ガラスが曇っているとか、トイレの汚さはもう何とかならんかなと思いつつ、やはり女性視点から見ますとやはりこれからクルーズをするイントロダクションにしてはちょっと寂しいかなってすごく感じましたので、またそういったことの見聞交換する場がありましたら、また提案などをしていただければと思います。よろしくお願いします。

以上です。

山本里香委員長

何かありますか。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

おっしゃるとおりだと思います。施設の管理者である四日市港管理組合とも協議をして、前向きにお客様のよりいい印象を持ってやっていただけるように協議をしてまいりたいと思っております。

荒木美幸委員

よろしくお願いします。今の状況ではおもてなしというのを一切感じられない待合室なんですね。だから、ぜひ工夫をお願いしたいと思います。

以上です。

山本里香委員長

ほかに質疑。副委員長はちょっと待ってください。

副委員長はありますか。小林委員はよろしいですか。

じゃ、続けてやりますか、休憩をここで入れようと思っておりましたが、その後で討論、採決のほうに進んでいこうかなということでもよろしいですか。

それでは、ここで30分までの休憩をとりたいと思います。

15：20 休憩

山本里香委員長

それでは、再開をいたします。

質疑の続きとなります。

中村久雄副委員長

まずばんこの里会館あり方検討会で、これ決算なんであれなんでしょうけれども、どういうふうに進んでいるか。この説明書、13ページの資料いただいたら、従来どおり萬古陶磁器振興協同組合連合会を運営したいとした上で、より有効活用できるように協議を進めているということですけれども、今年度も5000万円の、関連含めたら6600万円ぐらいの予算を使っているわけですが、この検討会の進捗やったり今後の見通しなんかをできればお願いします。

佐藤工業振興課長

ばんこの里会館のほうですけれども、昨年の決算議会の附帯決議を受けまして年の明けた1月にばんこの里会館あり方検討会というのを設置いたしました。その設置に当たってもいろいろとメンバー選定に当たりまして業界のほうといろいろお話をする中で、やっぱり業界としては余り萬古のほうを全然知らないような方がたくさん入るといのはどうなのかとか、いろいろなやりとりがございました。ちょっと設置自体もおくれましたけれども、一旦とりあえず1月には開始をすることができました。業界のほうから4人と、あと一般のところから数名出ていただきまして、いろんな業界から入っていただいて進めております。

まず1回目のほうは現状と現場のほうを全部確認いただいた、統計状況なんかをご説明させていただきました。2回目の2月の開催のときには、まずどう運営するかというものもあるんですけれども、ここをもっと皆さんに使っていただける施設にするにはどういったアイデアがいいだろうかということで、まずアイデア出しからしましょうかというところから始めていきましたわけですが、その後、また萬古陶磁器振興協働組合連合会あるいは萬古陶磁器卸商業協働組合、萬古陶磁器工業協働組合のほうといろいろやりとりをさせていただく中で、やはり萬古陶磁器振興協働組合連合会としてはなかなか運営

はもうこれ以上できないので、まず市の施設として管理をしてほしいという強い要望が出てございました。そちらのほうのやりとりを何度もやらせていただいたんですけども、なかなか次のステップへ進む内容をもう少し掘り下げて考えていくというところに至りませんでして、5月にやった3回目の委員会のところで、ようやくそういったところへ入れるかなという段階までは来ました。ところが、またもう一度揺り返しがございまして、業界としてやっぱり市の設置、市の施設でないと納得できなというところで揺り返しがございまして、その第4回目の会議をするのに大分時間を要しました。

こちらのほうについては、市のほうといたしましても一応政策会議のほうへかけるなりして、業界の意見としては公設でやっていただかなければ納得できないという意見がございましてけれども、その考え方についてどうかという内部で協議をいたしました結果、やはり市としても業界として頑張っていていただくという姿勢がないとなかなか支援もしにくいというところで、公設については市としてはあり得ませんといった回答を私と部長のほうからやらせていただいて、ようやく、じゃ、やっと公設というのがだめであれば、できる範囲の支援で何とか支援できる方法を考えようじゃないかと、支援していただける方法を考えようじゃないかというところに至りまして、今、現在例えば2階のうつわ亭のお店の部分をどうするか、当時からいろいろ意見が出ております資料館にしてはどうか、資料館ならどういったものにしたらいいのかとかいう、各ワーキングをつくろうというところに至りまして、8月の終わりに五つのワーキングをつくりまして、それぞれ1回ずつ今やっているところでございます。何とか来年度の予算に向けて大きな方針のほうは出していきたいなと思っておりますけれども、若干日程的にはおくれているというふうな状況でございます。

以上です。

中村久雄副委員長

非常に苦労されているというのはよくわかるんですけども、ばんこの里会館自体のこともまだよくわかってないのであれですが、本当にもう伝統文化をどうしていくかというのが主眼になるような教育施設だとか、そういう形でしかこれ生きる道ないのかなって僕は感じています。そういうことを含めて検討していただいたらいいと思います。はい、わかりました。

あといいですかね、続けてさせてもらって。

山本里香委員長

はい。

中村久雄副委員長

四日市花火大会のことですけど、花火大会、ごめんなさいね、そこで関連で言えばええけど、なかなかどこで手挙げたらいいのかなということがわかりませんので、どこでしたっけ。

ありました。協賛金のことですけれども、企業の協賛金は協賛金でメモリー花火なんかでも協賛といえば協賛ですが、事業収益とも考えられるかなと思うんですよ。それで思っていたのは有料観覧席、これはもう完全な事業収益やなと。協賛金というレベルじゃないなということちょっと思って、その仕分けはどうなっているのかということ、でも、加納委員の話聞いておったら、ああ、やっぱり協賛金の意味も含めてんのかなということも感じたわけですけれども、そういう事業仕分け、この収入仕分けはどういうふうに考えていますかね、細かいことなんですけれども。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

おっしゃる意味もよくわかります。企業初め市民の皆様方からお預かりしたというか、いただきましたお金というのを協賛金として扱っておるという現状でございますので、こういう仕分けを実行委員会の決算でもしておるところでございます。考え方としては協賛金という考え方を現在はしております。

中村久雄副委員長

有料観覧席なんかは事業をしたことによって売れるやつですからね、その辺もまた検討してもらったと思います。

それと、保険金というのはこれこんなにかかるとですね、延期保険金。これ平成23年度は延期になったんですね、たしか。保険がなかったら大変なことで、大変になったよなとこのを感じました。毎年この保険金は掛けているんですか、こういう額で、800万円。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

これは延期保険金ということで、収入の額が870万円ということで、これは延期に要した費用の90%の額でございます。ですので、保険料としましては支出のほうにまじっております、それは約100万円がこの中にまじっています。ちなみにことしは約90万円という保険料でございました。

中村久雄副委員長

わかりました。

次、別件ですけど、よろしいでしょうか。

工業のほうできょういただいた資料の16ページ、四日市市臨海工業地帯競争力強化検討会のところで土壤汚染ですけど、土壤汚染対策の規制緩和を求めているということで新規の事業契約のときに対応する予定やといいます、今、遊休地がたくさんある中で、そこへの最初に土壤汚染対策をしておかないと新規の事業契約もなかなかないんじゃないかなというふうに感じるわけですけども、やはり遊休地対策というのは総合計画でもうたっていることだし、そういう中で費用の遊休地の土壤対策について、まず市はこういうことをしますよということは検討できなんですかね。企業も怖がるというのはようわかりませけれども。

佐藤工業振興課長

土壤汚染の遊休地対策で土壤汚染対策がどうにかならないのかということだと思っんですけど、はっきり申しまして今コンビナートの中には遊休地、名前出していいのかどうかわかりませんが、三菱化学株式会社の土地を含めて結構ございます。ただ、今、全てに土壤汚染がもう出ているというわけではないんですけども、ほぼ昔からの利用の仕方を考えると、企業さんとしてもまず出るだろうなというような認識は十分持っていておりました、まず1点目に企業さんとしてそういった土壤汚染の問題が出たときに企業としてのイメージ、その辺を物すごくやっぱり会社としては気にされるというところの大きなネックが一つございます。それと、多分これをやろうと思いますと、私も一度ゼネコンさんなんかと話す機会がございましたので、処理費、例えば土を外へ持ち出してちゃんと処分して処理するとなると、どれぐらいかかるんですかといったお話を聞いたんですけども、立米3万円ぐらいだということを書いてみえました。立米3万円ですと例えば10㎡、10m10m角で5m掘れば何千万円のお金がこれだけでかかるわけですね。

本格的に対策をやるとすれば、一気にやるのであれば当然数億円という億レベルのお金がかかってくる話になりますし、仮に市のほうが何らかの支援をしたとしても、そういったところで企業さんにとってちょっと食指を動かせるだけの金額が出せるのかというと、これもなかなかやっぱり現状としては1億円かかったら5000万円出しましょうとかいうのは、市の財政状況とかで難しいと思いますし、なぜコンビナートだけなのかという問題もございます。周辺地域でも郊外のほうでもガソリンスタンドの跡地でございますとか、そういったところで困っている方はお見えになりますので、その辺の支援が果たして可能なのかなという問題もございます。逆に、じゃ、一斉に会社さんのほうで皆共同して、一番最初のほうのフレーズでございます履歴調査とか、そういったところだけでも昔の航空写真を探してきて、みんなで一遍どの辺にどういう使い方していたかというのを調べましょうといったようなところにも支援できないかなというところで、各社さんに投げかけはさせていただいておりますけれども、なかなかやっぱり皆さんの足並みがそろわないというか、いや、私の企業はまだまだもう少しこのまま現状見えていますよというところとか、やらなきゃいかんけど、なかなか手が出せないなというところもございまして、何とかしてはあげたいなというところはございますものの実際に動けないといった状況です。

中村久雄副委員長

実際に四日市市の事業所でも判断できるような材料が少なくなっていると思うんですけども、一つの考え方として郊外部に保々の工業団地等の増設をして、新規の工場を誘致、企業誘致ということも市は考えているわけですが、やっぱりそういう遊休地というのはインフラはもう整っていますから、そのインフラを有効にして生かしてね、今から新しい土地を造成してインフラ設備しようという土地と、既にインフラ設備が整っているところを改修して企業誘致する土地というのをコスト計算して、どちらが得かということもまた考えながら進めていってほしいなというふうに思います。

次に行きますけれども、あと2点ですかね。しゅんせつ土砂、港湾整備のしゅんせつ土砂の廃棄場所の候補地リストアップで、今はしゅんせつの土砂はどこへ捨てている、この間、大井の川やったと思うんですけど。

佐藤工業振興課長

港のほうのしゅんせつ土でございますけれども、管理組合の港湾で管理している部分の

バースについては、今、石原産業のほうへ無理やくたといいますか、新たに外に堤防を盛り上げまして、そこで追加で放り込んでいるというふうに聞いています。民間バースについては、今、四日市港港湾計画の中ではそちらへ放り込む場所がないというのが現状でございまして、先日、これ数年前ですが、ある企業さんが自分のとこのバースのしゅんせつをした際には、高いお金をかけて海洋投棄のほう、沖のほうへ放りにいっているということも聞いておりますので、その辺を早くしゅんせつ土砂を放れる場所を確保できないか、いわゆる埋立地のほうをすぐにつくれないということなんでございますけれども、ただ、管理組合のほうも荷物がふえてきて、その荷物を扱う用地がもっと必要だということまで、新たな埋め立てにかかるまでのところの荷の増加というか、それが見込めないということで、これがなかなか難しいというところで、今、現状とどまっております。

中村久雄副委員長

しゅんせつは港湾に限らず河川もね、河川のほうも今回の先月末の南海トラフによる大災害の関連で川への遡上も考えられて、その対策としてやっぱり河川のしゅんせつなんかも非常にこれから出てくるのかなと思うので、またその辺もちょっと気にしながらいつてほしいなというふうに思います。

もう一点よろしいでしょうか。もう一点、宮妻峡、非常に利用者の少ない三桁の宮妻峡ですけども、これ結構宮妻峡って僕は充分使っているんですが、キャンプなんかで、もう結構大阪府のほうからキャンプしに来るぐらい結構な人気なんですよ。地元ではなかなか余り宮妻かという感じですけども、それでもね、私、私有林管理組合のほうに出まして、その山守さんが、結構、宮妻峡の山にナラ枯れが出てきているよということで、ここちょっと早急って言わんけど、20年ぐらいたったらえらいことなるなということ聞いておったんですけども、そういう話って聞いていますか。

山本里香委員長

宮妻峡の状況ですか。

中村久雄副委員長

ナラ枯れ、木の病気、どんどんどんどん広がってくるんですすぐだめになる。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

岡田でございます。

済みません、詳しくまだ聞いておるわけではございません。

中村久雄副委員長

詳しく聞いてないって、ちょっと聞いている、こういう問題あんのやって。

安井観光推進室主事

観光推進室の安井です。

宮妻峡キャンプ場を管理していただいている方から、たしか三重県職員の方がそのナラ
の木のことについてちょっと調査に見えて、所有者はわかりますかという問い合わせがあ
りましたというのが、この8月末ごろのことでございますが、そういった問い合わせがあ
ったということを知っているだけでございます。

中村久雄副委員長

非常に自然豊かな観光施設で、これが実は昨年度の3月が会議あったときに、僕、その
山守さんから聞いたんですけれども、会議の場で、今月また会議があってそれをちょっと
管財課に聞いたら、いや、もう年度末のことなんで予算立てもできてないし、まだ何も対
策できていませんわということでしたんですけれども、やっぱり観光施設もあるところ
ですから、その辺の行政の縦割り行政が今見えたかな。やはりそういうこともやっぱり宮妻
峡の設備も非常に大事ですけど、ここに出ています、あそこのダイナミックさはあの谷
底で両翼から山ががっと見えるようなダイナミックさ、あそこはそれがいいんですから、
その景観を失わないように、また管財課とも確認して、その辺もこの商工農水部からもブ
ッシュしていただきたいなと思います。

以上でございます。

山本里香委員長

関連で。

小林博次委員

ばんこの里会館なんやけど、これ当初萬古陶磁器卸商業協働組合のほうから依頼をされて、自力で倉庫建てかえ無理やから支援してほしいと、結果として支援されて建ってきたんやね。そのころ萬古陶磁器工業協働組合と非常にコントロールがききにくくて、萬古陶磁器工業協働組合のほうも売って一つにしたらいいやないのという話があったけど、頑固な人が多くてできなかつたんやけど、今はどうも話ができそうな感じがあるんやけど、これ書いとる日本語見ていると公設民営って書いてあるね。これ民設民営なんやわね。これいつの間にか言葉が変わってきてしまう。だから、もう一回歴史をきちっと思い出してもらって対応していく必要があるんやないのかなと。お金を突っ込むことに反対しているわけじゃないの。二つ萬古陶磁器卸商業協働組合と萬古陶磁器工業協働組合の建物があって、一つ売って1本に、これは1本になっているわけね、これ連合会やから。だったら、そういうことで両方とも手放して、そこで自分たちがどうやってやれば生き残れるのか、そういうことを含めて問題提起をすべきなんやね。これ市に乗っかったら衰退するだけです、これ。これ、だめ。自分たちの足でどう立つのか、それをどう支えるのかという視点が貫かれやんと極めて難しいと思う。だから、ここで嫌なこと言うみたいに聞こえるんやけど、やっぱり原点をきちっと思い起こしてもらって、対策を立ててもらおうほうがいいやろうなと、こんなふうに思っている。

私、瀬戸市のほうの学者連中と瀬戸市の再開発でどうやってしたら活性化できるのかということに参加させてもらって、協議にも、現場にも何回か行かせてもらったんやけど、やっぱりそこにおる人たちがどうやって自分たちが生きることを考えていくのかということを中心に、あと、どんなふうな支援体制組んだらいいのかということで発展させていくということなんやな。その後どうやって発展したかちょっと見てないけど、そういう視点が貫かれやんとかなり厳しいと思うね。またぞろ、あんた、時間が来たら建てかえや、またぞろ改装や、おんぶにだっこやと言うとったらもう話にならへんと思うよね。そんならほかもいっぱいあるわけやからちゃんとしたってと。だから、そんなふうにはいかんわけで、これ地場産業でもこれだけ違うでね、今。

例えば垂坂町のこうじみそはもう消えたやろう。大矢知町の冷麦なんかでももう消えそうや。地場産業のかつて油もあったわけやね。だから、さまざまな地場産業があって、やるんならやるでええんやけど、全体をどうするのかという方向を出して取り組んでやってくれやんと、一つはやるわ、一つはもうほったらかしで消してしまうわというのはまずいと思うな。やっぱり自分たちの足で立つ、それを支えるということなしに産業なんて生き

残りを考えても無理やから、そういうことをきちっと考えてもらいたい。だから、流れをもう一回、資料でもええでまとめてくださいよ。これ入り口の張本人の1人やでね、萬古陶磁器卸商業協働組合のほうから倉庫が建ってとても自力では無理やから何とかしてくださいと。そうしたら、自分らで建てなさい、借金して建てなさい、その分は金払いましょうと、こういうやり方やったんだ、最初。ということ、これが流れなんやね。何か途中から市がやっておるんやからということで権利みたいに変わってきたけど、権利と違うでしょう、これ。だから、そここのところはっきりしないと発展しないよ、これから。

以上。

山本里香委員長

資料の請求はこれまでの流れ、文言についての確認も含めてです。

ほかにありますか。

(なし)

山本里香委員長

そうですね。1点だけ私のほうから質問をさせていただいて、1回答えていただいたらよろしいですのでお願いします。

企業立地奨励金交付事業についてですけれども、四日市市への税収確保とか、四日市市の活気あふれるまちにするために企業も頑張っていたかなあかんとか、雇用の問題も含めて目的を持って事業をされてきましたけれども、昨今では亀山市の問題などもあって、全国的に企業立地奨励金についての問題がクローズアップされていますが、そんな中で、今、四日市市としての考え方をお聞きしたいと思います。企業立地奨励金交付事業についての総括というか、今までの総括を含め今の思いを確認したいと思うのですが、効果も含め。

佐藤工業振興課長

企業立地奨励金でございますけれども、平成13年度からこの制度を始めまして、どちらかという四日市市の場合は新規立地というよりか、東芝なんかは別にしてもコンビナート関係の企業さんの更新による新たな設備投資というのが、どちらかという主力に推移

してきたのかなと思っております。その辺が新たな高付加価値型への施設への更新というのが進んできているというのが、今でも四日市市に何とかとどまって頑張っていたいているというところに結びついているのかなというふうに私どもはっております。

もう一つ、平成15年度から開始してやってまいりました民間研究所立地奨励金というほうの制度でございますけれども、こちらのほうも工場だけではなく、そこに研究施設も併設した格好で存続していただくということは、将来にわたってもやはりなかなかすぐ撤退するとか、そういうことにつながりにくいというふうなところも出てきているのかなと思っております。最近では他市さんのほうでもこの研究所の立地に対する奨励金制度あるいは補助制度というの、ちょこちょこ出てきているように聞いてございます。

以上でございます。

山本里香委員長

ありがとうございました。

それでは、ほかに質疑はありませんか。

伊藤 元委員

今、委員長が言われておった企業立地奨励金交付金事業の中なんです、ちょっと外れとったらとめてください。四日市市内に新たな取り組みをしてもらうとか、新たな産業を根づかすために事業所を呼んできたりとか、頑張ってもらうための交付金やと思うのやけど、結構、この、何ていうか、いろんな化学産業が中心になってきとるかなって感じるんやけど、この来ていただいているとか、こうやって頑張っていたいっている企業さんの安全管理の面ってちゃんとしてもらっとんのかなって、ちょっと心配するところがあるのやけど、どことは言わんけれども、いろいろ今ではもう環境基準のISOからいろんな安全管理のマネジメントをしっかり皆ほとんどがしてきとると思うんのやけど、その辺で少しそういう部分が足らんような事業所さんっておらへんかな、この中に。そういうところがあってはやっぱりちょっと僕はまずいと思うんですよ。ですので、一遍、その辺を調査してね、周辺の地域に迷惑のかけないような取り組みがちゃんとされておるかどうか、今後またちょっと調べといてください。それでもしそういった取り組みがなければ、きちっとそれをしていただくように指導をお願いをしときたいと思えます。

以上です。

山本里香委員長

要望でよろしいですか。

伊藤 元委員

はい、要望です。

山本里香委員長

要望ということです。

質疑ありませんか。

(なし)

山本里香委員長

質疑もないようですのでこれより討論に移ります。

討論の方はご発言願います。

(なし)

山本里香委員長

別段討論もないようですので、これより分科会としての採決を行います。

商工農水部については切り離しての審査をしておりますので、今、提示をされております商業勤労課、工業振興課の部分について議案第73号中、商業勤労課、工業振興課部分についての採決を行いたいと思います。

認定すべきことにご異議はございませんか。

(異議なし)

山本里香委員長

ご異議なしと認め、本件、この部分を認定すべきもとしました。ありがとうございます。

〔以上の経過により、議案第73号 平成23年度四日市市一般会計及び各特別会計等の決算認定について、一般会計、歳出第5款 労働費、第1項 労働諸費、第7款 商工費、第1項 商工費について、採決の結果、別段異議なく認定すべきものと決する。〕

山本里香委員長

それでは、続けます。予算と協議会までを続けたいと思いますがよろしいですか。

商工農水部商業勤労課所管部分の予算です。ちょっと入れかわりがあります。予算の資料のほうを、はい、配付してください。予算常任委員会資料ですよね。予算常任委員会資料です。今、写真も追加で配付してございます。

そちらの準備はよろしいですか、資料はまずはこれになりますね。補正予算、はい、ありがとうございます。それでは、よろしいですか。

商工農水部にかかわる予算常任委員会産業生活分科会をこれより行います。

商業勤労課所管部分ということで、議案第78号の平成24年度四日市市一般会計補正予算（第3号）、第1条歳入歳出予算の補正のうち歳出第7款商工費、第1項商工費ということで、これにつきましても説明は受けておりますが、新しい資料がありますので追加で説明がありましたらお願いします。

議案第78号 平成24年度四日市市一般会計補正予算（第3号）

第1条 歳入歳出予算の補正

歳出第7款 商工費

第1項 商工費

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

失礼します。

今お手元にお配りをさせていただきましたA4の横のカラー刷り、観光施設整備事業（参考写真）というのを本日お手元にお配りをさせていただきました。それのご準備をよろしく、お受け取りのほどをお願いいたします。

山本里香委員長

資料を見ていただきまして、資料の説明ですか。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

はい、資料を説明させていただきます。

この参考資料は8月定例議会の8月補正予算参考資料の9ページの観光施設整備事業の参考写真、現地の参考写真でございます。ちょっとお手元に見ていただきますでしょうか。4枚写真がございます。当該整備予定地は道路の坂道の状態のところが存在しておりますので、坂の上の土地というのが左上の写真でございます。同じように、今回上げさせていただきます土地のもう一方は下の段、坂の下の土地というところの写真でございます。参考にですが右側の上下はサイクルパークの駐車場、平日の朝の状況でございます。ですので、このような色になって大変失礼をいたしておりますが、平日の朝の状況、6時ぐらいの状況の写真でございます。

山本里香委員長

120台分の駐車場がいっぱいとなっているために、追加をしたいということの補正予算です。

質疑ございませんか。

加納康樹委員

せっかく参考写真をいただいたので、いただいているあらかじめもらっている、だから、これは何やったっけ。8月補正予算参考資料の9ページに図面がありますが、この4枚の写真はそれぞれ図面のどこの角度からの写真でしょうか、教えてください。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

申しわけございません。図面のほうをごらんください。駐車場整備予定地というのが斜線の部分でございます。平仮名で言うと逆のくの字になっております。逆のくの字の上の部分、この図面で言うと上の部分ですね。北側になりますが、これがこの写真の駐車場、左側の下、坂の下の土地というほうでございます。説明を加えますとこの道、図面にあります道は上り坂になっておりますので、図面のほうをごらんください。左から右に上り坂

になっております、ご覧のとおり。それで、その坂の下の土地というのが写真で言いますと左側の下の駐車場予定地の坂の下の土地、この図面で申しますと逆くの字の下の部分です。

加納康樹委員

委員会の資料としては残しにくいと思うんですが、これ見ながらカメラアングルがどこからというのを教えてください。

山本里香委員長

そこに書いてください、後ろに黒板があります。略図で描いてください、イメージを。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

済みません。よろしいでしょうか。消します。

山本里香委員長

左上から 1、2 と下へ、1、2、3、4、右側 3、4 としてください。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

この土地が、ちょっと説明加えさせてください。この土地は坂の途中にございますので、土地はつながっておりますが、登記上、構図上はつながっておりますが、坂ですので連たんしておりません。坂の、これ絵が下手ですね、もう一回ちょっと。

山本里香委員長

道があってどこから撮ったかというのがわかるように。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

まずこの坂の上の土地はどこから撮ったかというのと、これ道でございます。坂の上の土地は、これがここです。これが高いほうです。それでこういうふうなアングルで撮りました。この斜線部分がこの写真で言いますと坂の上の土地というものでございます。よろしいでしょうか。

山本里香委員長

この右側が下がってきてんのね。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

それで、次に進みます。坂の下の土地はどこから撮ったかという、こういうアングルで撮った土地が坂の下の土地です。ですので、よく見るとこの道がちょっと写っていると、この道が少し写っているという場所でございます。

申しわけございません。実はきょうの朝撮ってきたものですから、資料でA地、B地ときちっとアングルもしなきゃあかんのに申しわけございません。

山本里香委員長

わかりました。加納委員よろしいですか。

加納康樹委員

はい。

山本里香委員長

ご質疑ありますか。

よろしいですか、ご質疑。副委員長もよろしいですか。

(なし)

山本里香委員長

それでは、ご質疑もないようですので討論に入ります。

討論ある方はご発言をお願いします。

(なし)

山本里香委員長

討論なしと認めます。

それでは、本件について採決を行います。

議案第78号の平成24年度四日市市一般会計補正予算のうち商工農水部商業勤労課所管部分で第1条の歳入歳出予算の補正、歳出第7款商工費、第1項商工費の件において可決すべきことに異議はございませんでしょうか。

(異議なし)

山本里香委員長

異議なしと認め、これを認めることといたします。

[以上の経過により、議案第78号 平成24年度四日市市一般会計補正予算(第3号)、第1条 歳入歳出予算の補正、歳出第7款 商工費、第1項 商工費について、採決の結果、別段異議なく可決すべきものと決する。]

16:09閉議